

Ultra 160 SCSI RAID UNIT

Ultra 160 SCSI RAID UNIT

ソフトウェアマニュアル

Logitec

目次

はじめに	1
第 1 章 コントロールパネルからの設定	2
1 . 1 基本設定	3
1 . 2 コントロールパネルから設定可能な項目	9
1 . 3 LCD パネルの表示内容	18
第 2 章 RAID Guide GUI ソフトウェアを使用した設定	21
2 . 1 インストール	22
2 . 2 RAID Guide による管理	29
2 . 2 . 1 ホストパソコンから RAID Guide を起動する	29
2 . 2 . 2 ネットワーク経由で RAID Guide を起動する	31
2 . 2 . 3 管理メニューについて	33
2 . 3 障害発生時の通知機能について	45
2 . 4 Q&A 集	51
第 3 章 ターミナルエミュレーションモードでの管理	53
3 . 1 VT100 ターミナルのセットアップ	53
3 . 2 ファームウェアのアップデート	59

はじめに

本ソフトウェアマニュアルでは、LDAシリーズの設定・管理を前面のコントロールパネルから行う方法、付属のRAID管理ソフトウェアから行う方法について第1章、第2章で順番にご説明します。また、第3章ではターミナルエミュレーションモードを使用したファームウェアのアップデート方法についてご説明いたしますので、必要に応じてそちらもご参照ください。

第 1 章

コントロールパネルからの設定

本章ではコントロールパネルを使用して、本製品の設定を行う方法についてご説明します。出荷時の設定を変更しご使用になる場合は、パソコンに接続する前に「1.1 基本設定」を参照して、必要な設定を行ってください。

第 1 章の構成について

本章の構成内容は以下のようになっております。

1.1 基本設定

基本設定では、本製品のSCSI ID、RAIDレベルの設定方法についてご説明します。

1.2 コントロールパネルから設定可能な項目

ここでは、コントロールパネルから設定可能な項目についてご説明します。

1.3 LCD パネルの表示内容

ここでは、通常動作時にLCDパネルに表示される内容についてご説明します。

これから、RAIDの設定を行う場合は、「1.1 基本設定」をご参照の上、基本的な設定を行って本製品の接続を行ってください。出荷時設定でご使用になる場合または基本設定が終わった場合は、「1.2 コントロールパネルから設定可能な項目」以降をご参照ください。



ポイント

本製品は出荷時に SCSI ID「0」、RAID レベル「5」に設定された状態で出荷されています。この設定で構わない場合は、そのまま本製品を接続して使用することが可能です。その場合はハードウェアマニュアルをご参照の上、必要な接続を行い、接続先のパソコンからフォーマットしてご使用ください。ただし、後でRAID設定を変える場合は、本製品に保存されたデータは全て消去されますのでご注意ください。

1.1 基本設定

SCSI IDおよびRAIDレベルの変更を行う場合は、以下の注意事項をご確認の上、設定の手順をご参照ください。

初めて本製品に電源を入れるとコントローラがシステムのチェックを行い、LCDパネルの表示が以下の順で切り替わります。チェック中はユーザは特に操作をする必要はありません。

- 「Power on」(すぐに消えます)
- 「Initializing Please Wait...」(すぐに消えます)
- 「Power on Self Test Please Wait...」(10秒ほど表示されます)
- 「Power on Self Test Completed」(5秒ほど表示されます)
- 「Initializing Please Wait...」(30秒ほど表示されます)

チェックが終了すると最後に「Ready」と表示されます。



ご注意

- ・RAIDレベルを変更する場合、RAIDの構築が終わるまではホスト側のパソコンの電源を入れないでください。

ステップ1： SCSI ID の設定

チェック終了後に「Ready」と表示されたら、Eseボタンを2秒以上押して、「Set SCSI ID #」と表示させてください。本製品出荷時のSCSI IDナンバー「0」を変更する場合は、以下の手順で行います。変更する必要がない場合はステップ2へお進みください。

Set SCSI ID#

↓

「Set SCSI ID #」と表示されている状態でEnterボタンを押してください。

Select Chan#
[Chan1]

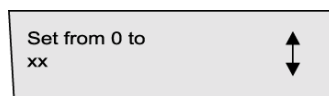
↓

「Select Chan # [Chan1]」と表示されるのでEnterボタンを押してください。



ご注意

ここで下ボタンを押すと「Select Chan # [Chan2]」と表示されますが、本製品はチャンネル2はサポートしておりません。チャンネルは必ず1を選択してください。



「Set from 0 to xx」(SCSI ナンバーを 0 から xx に変更)と表示されます。上ボタン、下ボタンを使用して SCSI ID ナンバーを変更し、Enter ボタンを押してください。

「Ch1 ID x Confirm ? NO」(チャンネル1のIDナンバーを x にしますか? / いいえ)と表示されますので、下ボタンを押して「Ch1 ID x Confirm ? YES」に切り替えてから Enter ボタンを押してください。

「Not take effect until power on」と表示されます。Ese ボタンを押して設定を終了します。以上で ID ナンバーの設定は終了です。



ご注意

変更後の SCSI ID ナンバーは一度本製品の電源を落とし、再度起動しなければ有効になりません。この時点で、いったん電源を入れなおすか、RAID レベルの設定後に電源を入れなおしてください。

ステップ2： RAID レベルの設定



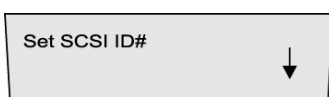
重要なご注意

RAID レベルを再設定する場合は、本製品にセットしてあるハードディスク内の全てのデータが削除されます。運用には十分ご注意ください。

コントロールパネルから RAID レベルの設定をし直す場合、「QuickRAID Setup」と「LD & RAID Setup」の2つの方法を選択することができます。出荷時設定から RAID レベルを変更するだけの場合は「QuickRAID Setup」を、ディスクを幾つかの論理ドライブに分けて複数のRAIDを構築する場合は「LD & RAID Setup」で設定を行ってください。

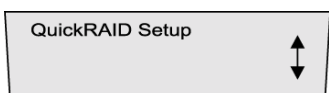
QuickRAID Setup

QuickRAID Setupでのセットアップでは、全てのドライブを1つの論理ドライブ（1つのRAIDレベル）としてセットアップします。

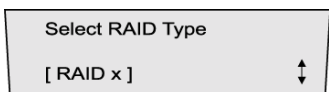


LCDパネルに「Ready」と表示されている状態からEseボタンを2秒以上押して「Set SCSI ID #」という表示に切り替えてください。

「Set SCSI ID #」と表示されたら下ボタンを押してください。



「QuickRAID Setup」と表示されますので、Enterボタンを押してください。



「Select RAID Type [RAID5]」と表示されます。下ボタン、上ボタンを押してRAIDレベルを選択し、決定後Enterボタンを押してください。

「Confirm NO」と表示されます。この設定で確定する場合は下ボタンを押して「YES Will erase disk」に表示を切り替え、Enterボタンを押してください。別の設定にする場合はEseボタンを押すと一つ前の画面に戻ります。

Init Parity xx%
Please Wait!



選択したRAIDレベルの設定が行われます。(この作業は数十分～数時間ほどかかります。)設定中は進行状況と作業内容が表示されます。この間はボタンに触れないようにしてください。

設定が終わると「Ready」と表示されます。この後、一度本製品の電源を入れなおしてからパソコンに接続し、フォーマットを行うと本製品が使用可能な状態になります。

LD & RAID Setup

LD & RAID Setupでのセットアップでは、手動で複数のRAIDアレイ(論理ドライブ)を作成することができます。この場合、それぞれのRAIDアレイには異なる論理ユニット番号を割り振る必要があります。

本製品は出荷時に全てのハードディスクを使用して論理ドライブを構成し、RAID 5 の設定となっていますので、はじめに以下の手順でこの設定を解除します。

Set SCSI ID#



LCDパネルに「Ready」と表示されている状態からEseボタンを2秒以上押して「Set SCSI ID #」という表示に切り替えてください。

LD
View/Edit



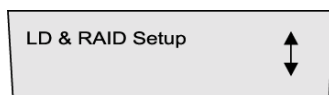
「Set SCSI ID #」と表示されたら、下ボタンを3回押してください。「LD View / Edit」と表示されます。Enterボタンを押してください。

LD 0 RAID 5 1P
Disk : 1-8

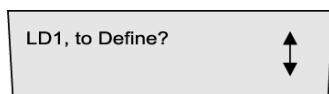
「LD 0 RAID 5 1P Disk : 1 - 8」と表示されます。Enterボタンを押すと、「LD 0 RAID 5 1P Delete?」と表示されます。再度Enterボタンを押してください。

LD 0 RAID 5 1P
[Delete]

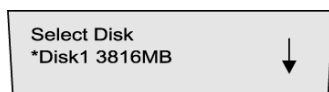
「Confirm NO」と表示されます。下ボタンを押して「YES Will erase disk」に表示を切り替え、Enterボタンを押してください。これで設定が解除されました。



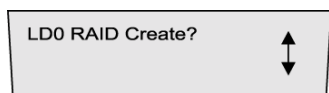
「LD&RAID Setup」と表示されます。Enter ボタンを押してください。



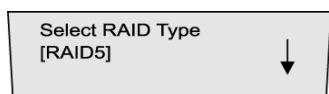
「LD 0 , to Difine? 」と表示されます。再度 Enter ボタンを押してください。



「Select Disk Disk1 xxxxxxMB」と表示されます。ここでEnterを押すとDiskの横に*印が付選状態になります。下ボタンを押すとDisk2、3、4...とディスクを選択することができます。

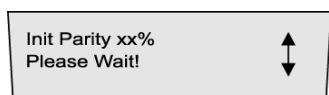


ディスクを選択後、下ボタンを最後まで押すと「LD 0 RAID Create? 」と表示されます。Enter ボタンを押してください。



「Select RAID Type [RAID 5]」と表示されます。下ボタンで設定するRAIDレベルを選択してEnter ボタンを押してください。

「Confirm NO」と表示されます。この設定で確定する場合は下ボタンを押して「YES Will erase disk」に表示を切り替え、Enter ボタンを押してください。



選択した RAID レベルの設定が行われます。(この作業は数十分～数時間ほどかかります。) 設定中は進行状況と作業内容が表示されます。この間はボタンに触れないようにしてください。

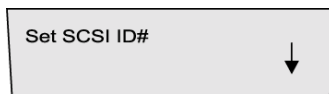
設定が終わると「Ready」と表示されます。再度Eseボタンを2秒以上押して「Set SCSI ID #」という表示に切り替え下ボタンを2回押します。

「LD&RAID Setup」と表示されます。Enter ボタンを押してください。

「LD 1 , to Difine? 」と表示されます。再度Enterボタンを押してください。

手順 から の操作を繰り返して論理ドライブ1 (LD1) のRAIDレベルをセットアップしてください。

さらに複数のRAIDを作成する場合もこの手順を繰り返します。



複数のRAIDの構築が終わったら、それぞれのRAID(論理ドライブ)に任意の論理ユニット番号(LUN)を割り振ります。Ese ボタンを2秒以上押して「Set SCSI ID #」という表示に切り替えてください。



下ボタンを4回押してください。「Host-LUN Setup」と表示されます。Enter ボタンを押してください。

「Map LD x」と表示されます。論理ユニット番号を設定するRAID(論理ドライブ)の番号を選択してEnter ボタンを押してください。

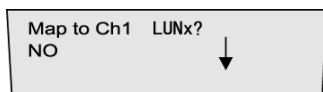


「Map LD x [Chan1]」と表示されます。Enter ボタンを押してください。



ご注意

ここで下ボタンを押すと「Map LD x [Chan2]」と表示されますが、本製品はチャンネル2はサポートしていません。チャンネルは必ず1を選択してください。



「Map to Ch1 LUNx? NO」と表示されます。下ボタンを押して「NO」を「YES」に切り替えて、Enter ボタンを押してください。

選択したRAID(論理ドライブに)に表示された論理ユニット番号が割り振られます。「Host-LUN Setup」表示に戻りますので、同じ手順で残りのRAID(論理ドライブ)にも論理ユニット番号を割り振ってください。以上で設定は終了です。この後、一度本製品の電源を入れなおしてからパソコンに接続し、フォーマットを行うと本製品が使用可能な状態になります。

1.2 コントロールパネルから設定可能な項目

ここではコントロールパネルから設定可能な項目について表示される順番にご説明いたします。設定を行うには必ず **Ese** ボタンを2秒以上押しして「Set SCSI ID#」の画面を表示させてください。設定項目へは全てここから下ボタンを押して移動します。

Set SCSI ID#



Set SCSI ID#

本製品の出荷時設定のSCSI IDは「0」となっております。この番号が他のSCSI機器と重複する場合は、左の画面でEnterボタンを押してください。



ご注意

- ・SCSI IDナンバーを変更する場合は、なるべくRAIDレベルの設定を行う前に行ってください。



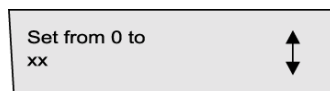
Select Chan#
[Chan1]

チャンネル選択の画面が表示されます。そのままEnterを押してください。



ご注意

ここで下ボタンを押すと「Select Chan # [Chan2]」と表示されますが、本製品はチャンネル2はサポートしておりません。チャンネルは必ず1を選択してください。



Set from 0 to
xx

上下ボタンを使用してSCSI IDを0～15の間から選択してください。選択後Enterボタンを押すと、「Ch1 IDx Confirm? No」と表示されますので、下ボタンでYESを選択してEnterボタンを押してください。

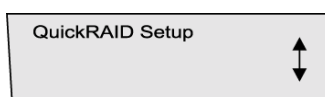
「Not take effect until power on」と表示されます。Ese ボタンを押して設定を終了します。



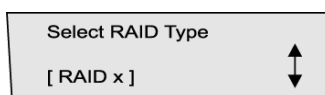
ご注意

変更後のSCSI IDナンバーは一度本製品の電源を落とし、再度起動しなければ有効になりません。

Quick RAID Setup



自動的にRAIDレベルを設定する場合は、左の画面から Enter ボタンを押してください。



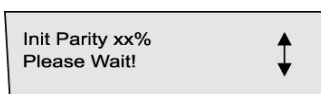
左の画面で下ボタン、上ボタンを押してRAIDレベルを選択し、決定後Enterボタンを押してください。



重要なご注意

RAIDレベルを設定する場合は、本製品にセットしてあるハードディスク内の全てのデータが削除されます。運用には十分ご注意ください。

「Confirm NO」と表示されます。この設定で確定する場合は下ボタンを押して「YES Will erase disk」に表示を切り替え、Enter ボタンを押してください。別の設定にする場合は Ese ボタンを押すと一つ前の画面に戻ります。



選択したRAIDレベルの設定が行われます。(この作業は数十分ほどかかります。) 設定中は進行状況と作業内容が表示されます。この間はボタンに触れないようにしてください。

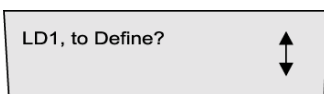
設定が終わると「Quick RAID Setup」と表示されます。

LD & RAID Setup

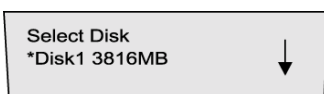
このメニューは、本製品内に RAID に設定されていないハードディスクが2つ以上残っている場合のみ表示されます。



このメニューからは、ユーザーが RAID レベルと論理ドライブに使用するハードディスクの台数を設定することができます。Enter ボタンを押してください。



作成する論理ドライブの確認画面が表示されます。Enter ボタンを押してください。
(左の画面の「LD1」は論理ドライブ1の意味です。)

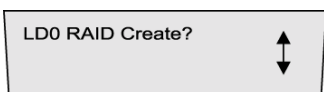


左の画面で、RAID アレイを作成する論理ドライブに使用するハードディスクを選択します。上下ボタンでディスクを選択したら Enter ボタンを押します。選択された Disk の左側にアスタリスク (*) が表示されます。

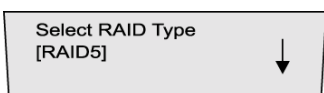
Point

ポイント

- ・設定を行うには少なくとも2台以上のディスクを選択してください。(RAID レベル3、レベル5の場合は3台以上)
- ・既に設定済みのハードディスクは選択できません。



選択後、一番下まで下ボタンを押すと左の画面が表示されます。Enter ボタンを押してください。



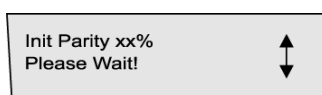
左の画面が表示されたら、上下ボタンを押して RAID レベルを選択し、Enter ボタンを押します。

「Confirm NO」と表示されます。この設定で確定する場合は下ボタンを押して「YES Will erase disk」に表示を切り替え、Enter ボタンを押してください。別の設定にする場合はEse ボタンを押すと一つ前の画面に戻ります。



ご注意

設定に使用するハードディスク内にデータが残っていた場合、内容は全て消去されます。運用には十分ご注意ください。



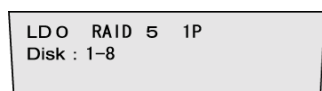
選択したRAIDレベルの設定が行われます。(この作業は数十分～数時間ほどかかります。)設定中は進行状況と作業内容が表示されます。この間はボタンに触れないようにしてください。

設定が終わると「Ready」と表示されます。

LD View / Edit

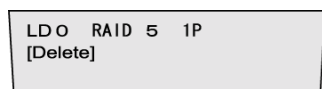


このメニューからは論理ドライブの内容の確認・消去ができます。Enterボタンを押してください。



論理ドライブの内容が表示されます。内容を確認するだけの場合は、確認後Eseボタンを押してください。

上の画面の例では「論理ドライブ0、RAID5、パーティション1、使用ディスク1～8」となります。



論理ドライブを消去する場合はEnterボタンを押してください。[Disk : xxxx] の部分の表示が [Delete] に切り替わります。

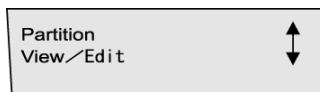
再度Enterボタンを押すと、「Confirm NO」と表示されます。この設定で確定する場合は下ボタンを押して「YES Will erase disk」に表示を切り替え、Enterボタンを押してください。



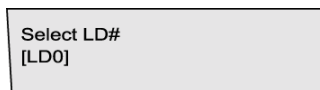
重要なご注意

論理ドライブを消去すると、論理ドライブに指定していたハードディスク内の全てのデータが削除されます。運用には十分ご注意ください。

Partition View / Edit



このメニューから作成した論理ドライブを2つのパーティションで区切ることができます。Enterボタンを押してください。



論理ドライブを選択する画面が表示されます。(論理ドライブが複数ある場合は上下ボタンで選択します。) Enterボタンを押してください。



論理ドライブの容量情報が表示されます。Enterボタンを押してください。



容量の指定画面が表示されます。各桁ごとに上ボタン下ボタンで値を指定し各桁ごとにEnterボタンを押します。

サイズ指定後にEnterボタンを押すと、「Confirm NO」と表示されます。この設定で確定する場合は下ボタンを押して「YES Will erase disk」に表示を切り替え、Enterボタンを押してください。

再度Partation View / Edit画面を表示させると、上下ボタンで、論理ドライブに作成されたパーティション1、2のサイズが確認できます。サイズを変更したい場合はEnterボタンを押します。

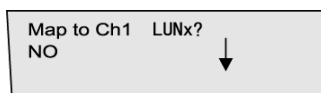
Host-LUN Setup



このメニューから、作成した論理ドライブまたは各パーティションに論理ユニット番号(LUN)を割り振ることができます。Enterボタンを押してください。



Map LDx と表示されるのでEnterボタンを押してください。左の画面が表示されます。本製品でサポートしているチャンネルはChan1のみですので、[Chan1]と表示されていることを確認して、再度Enterボタンを押します。



左の画面が表示されます。下ボタンで「YES」を選択し、Enter ボタンを押してください。「LUN x」の「x」の部分に記された番号が割り振られます。

複数の論理ドライブがある場合は同じ手順で論理ユニット番号を割り振ってください。

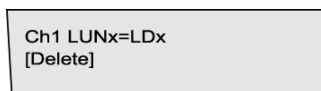
Host-LUN View / Edit



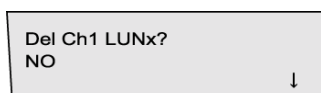
このメニューでは、設定した論理ユニット番号を確認、削除することができます。Enter ボタンを押してください。



左の画面が表示されます。論理ユニット番号が複数ある場合は上下ボタンで選択します。確認だけで終了する場合はEseボタンを押します。選択した番号を削除する場合はEnter ボタンを押します。



下の行に[Delete]と表示されます。Enter ボタンを押してください。



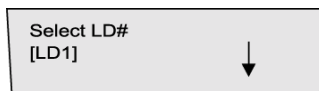
確認のメッセージが表示されるので、下ボタンで「YES」を選択し、Enter ボタンを押します。

Bad Block Scrub

この機能を実行すると、ディスクのエラーによるデータの消失を防ぎ、データの完全性を高めます。実行中にディスク内にエラーが見つかったら、コントローラはパリティを計算し、データを再生させ、正常なドライブセクタに書き込みます。この機能はRAID レベル3 以上でのみ使用できます。



左のメニュー画面から、Enter ボタンを押してください。



論理ドライブを選択する画面が表示されます。Enterボタンを押してください。(複数の論理ドライブがある場合は下ボタンで選択後にEnterボタンを押します。)



再度Enterボタンを押すと、「Confirm NO」と表示されます。この設定で確定する場合は下ボタンを押して「YES」に表示を切り替え、Enterボタンを押してください。



ドライブのスキャンを開始します。ドライブ内に不良セクタが見つかったらイベントログに記録されます。実行中は進行状況がパーセンテージで表示されます。

RAID Expansion

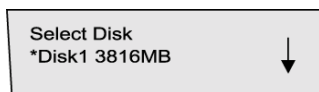
論理ドライブに使用していないハードディスクがあるときに、このメニューを使用してRAIDを構築している論理ドライブのサイズを拡張することができます。この作業にはドライブのサイズにより、数十分から数時間かかります。この方法ではバックアップなしに拡張を行うのであまりお勧めできません。



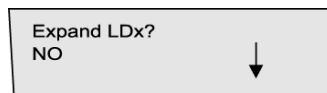
左のメニュー画面から、Enterボタンを押してください。



論理ドライブを選択する画面が表示されます。(論理ドライブが複数ある場合は上下ボタンで選択します。) Enterボタンを押してください。



左の画面で、RAIDアレイを作成する論理ドライブに使用するハードディスクを選択します。上下ボタンでディスクを選択したらEnterボタンを押します。選択されたDiskの左側にアスタリスク(*)が表示されます。



確認のメッセージが表示されます。その論理ドライブを拡張する場合は下ボタンを押して「YES」を選択し、Enter ボタンを押してください。

警告音が鳴り、拡張が始まります。Ese ボタンを押してメニューを終了すると、進行状況が表示されます。作業中はアクセス表示ランプがオレンジ色に点灯します。

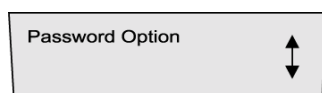


ご注意

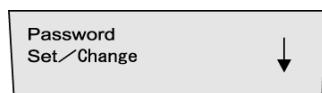
RAID 拡張を選択できるのは RAID レベル 3 以上です。また、拡張するハードディスクのサイズが、論理ドライブを構築している他のハードディスクより容量が小さい場合は、拡張することができません。

Pasword Option

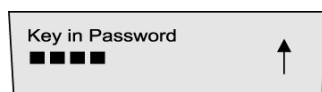
以下の手順でパスワードを設定すると、本製品の設定を行う際に必ずパスワードを入力しなくてはなりません。安全上、パスワードを設定しておくことをお勧めします。出荷時の状態では設定されていません。



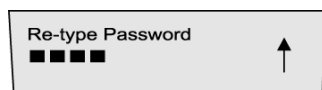
パスワードを設定するには、左のメニュー画面から Enter ボタンを押してください。



パスワードを設定・変更する場合は Enter ボタンを押します。(パスワードを解除する場合は下ボタンを押した後に Enter ボタンを押します)



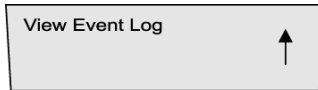
パスワード入力画面が表示されます。4桁のパスワードを設定してください。入力後 Enter ボタンを押すと、パスワードの確認入力画面が表示されます。再度パスワードを入力して Enter ボタンを押します。



ご注意

設定したパスワードは忘れないようにしてください。パスワードを変更する場合も、古いパスワードを入力する必要があります。

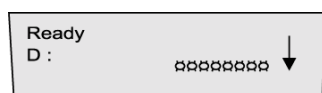
View Event Log



このメニューからは、最近行ったイベントのログを確認することができます。ログは99まで記録され、それを超えると古い物から順に消去されてゆきます。ただし、いったん電源を切るとログは全て削除されます。

1.3 LCD パネルの表示内容

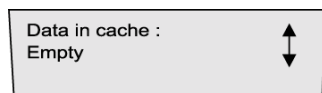
RAID の設定が終わると、コントローラはレディモードになります。レディモードではLCDパネルを通して、以下の内容を確認することができます。項目を移動するには上下ボタンを使います。Chan2と表示される項目もありますが、本製品はチャンネル2は未サポートとなっております。また、表示される内容は設定によって変わる場合もあります。



Ready-デフォルトではLCDパネルにこの画面が表示されます。



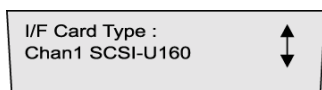
EVENT01-本製品に重大なエラーが発生した場合、エラーログがReady画面の後に表示されます。エラーがない場合はこの画面は表示されません。



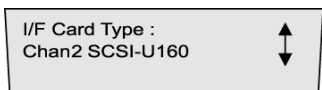
Data in Chace-現在使用しているキャッシュの量を表示します。



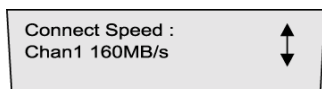
Controller ID-本製品にインストールされているコントローラのタイプが表示されます。



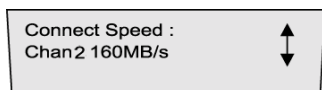
I/F Card Type-本製品のホストインターフェースのタイプが表示されます。



I/F Card Type-Channel2側のホストインターフェースのタイプが表示されますが、未サポートです。



Connect Speed-ホストインターフェースの最大転送速度が理論値で表示されます。



Connect Speed-Channel2側のホストインターフェースの最大転送速度が理論値で表示されますが、未サポートです。

SCSI ID:
Chan1 0

SCSI ID-Channel1 側に現在設定されている SCSI ID ナンバーが表示されます。

SCSI ID:
Chan2 0

SCSI ID-Channel2 側に現在設定されている SCSI ID ナンバーが表示されませんが未サポートです。

LD1 : Ready
RAID5 608GB

RAID Capacity- 作成された RAID がある論理ドライブ番号、状態、RAID レベル、容量が表示されます。



ご注意

複数の論理ドライブがある場合、状態の部分に No LUN と表示されていると、そのドライブは接続先のパソコンから認識されません。その場合は「3.2 コントロールパネルからの設定」「Host-LUN Setup」の項を参照し、論理ユニット番号を割り振ってください。

Chan1 LUN0 :
LD1 76GB

LUN #- 論理ユニット番号が割り振られている論理ドライブの容量が表示されます。

Disk1 : Online
L1 19G

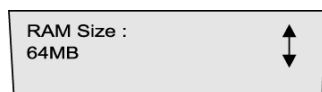
Disk #- 内蔵ハードディスクの情報が表示されます。論理ドライブとして構成されている場合は Online と表示されます。未使用のハードディスクは Spare と表示されます。

CPU Type :
PPC750

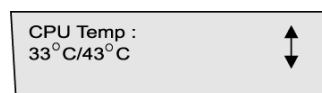
CPU Type- 本製品に内蔵されている CPU のタイプが表示されます。(PPC750 は Power PC 750 の略です)

IDE Chip :
HPT370

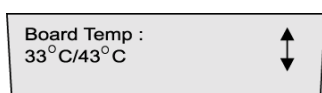
IDE Chip- IDE インターフェースのコントロールチップ名が短縮形で表示されます。



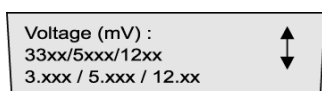
RAM Size- コントローラのメモリのサイズが表示されます。



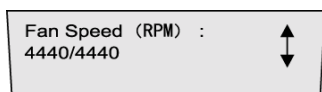
CPU Temp- CPUの温度状態が表示されます。1番目に表示されている温度が現在の温度です。2番目に表示されている温度が、電源を入れてから現在までの間で1番高かったときの温度です。



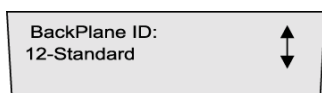
Board Temp- コントローラの温度状態が表示されます。1番目に表示されている温度が現在の温度です。2番目に表示されている温度が、電源を入れてから現在までの間で1番高かったときの温度です。



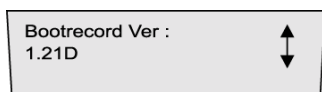
Voltage Monitor- 本製品の電圧状態を表示します。



Fan Speed- 本製品の冷却ファンの回転速度を表示します。



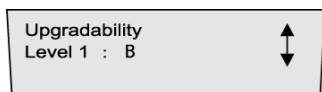
Back Plane ID- 本製品にインストールされているBackPlaneのIDを表示します。テクニカルサポートへお問い合わせの際に役に立ちます。



Bootrecord Version - テクニカルサポートへお問い合わせの際に重要となる情報です。



Firmware Version - 現在使用しているファームウェアのバージョンを表示します。



Upgradability Level - システムで使用しているコントローラのファームウェアのアップグレードレベルを表示します。



Serial Number - 本製品のシリアル番号が表示されます。

第2章 RAID Guide GUI ソフトウェア を使用した設定

本製品は付属のRAID Guide GUI マネージャーを使用してシステムの設定・監視をすることができます。本章ではソフトウェアのインストール方法と使用方法についてご説明いたします。本ソフトウェアは、Windows 環境以外ではご使用になれません。



ご注意

インストールの前にご使用のパソコンのディスク例を256色以上の設定にしてください。それ以下でインストールを行うと、幾つかの設定項目が見えなくなります。

2

RAID Guide GUI マネージャーの特徴

RAID Guide を使用すると、パソコン上で RAID アレイの様子を監視し、問題が起こった時にリアルタイムで状態のレポートを確認することができます。また、RAID のセットアップ・拡張、パスワードの設定、システムのメンテナンス等を行うことができます。

本ソフトウェアは本製品と直接接続しているパソコン(ホスト)および、ホストパソコンと同一セグメント内にあるパソコン(クライアント)でご利用いただけます。



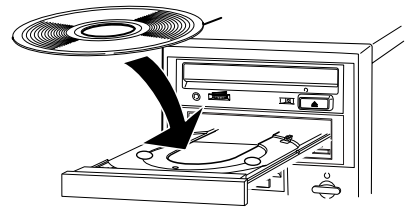
ポイント

- ・論理ドライブ(RAIDアレイ)が1つの構成で本製品をご使用の場合は、出荷時設定(RAIDレベル5)または、コントロールパネルからQuickRAID Setup を実行してRAIDレベルを設定し(第3章参照)、RAID Guide GUI マネージャーは、監視と管理用途にご使用ください。複数の論理ドライブ(複数のRAIDアレイ)を作成するには手動での設定が必要です。
 - ・ソフトウェアインストール後、初めに起動するときは数分時間がかかります。
-

2 . 1 インストール

RAID Guide は以下の手順でインストールしますインストールの前に使用しているアプリケーションを全て終了させておいてください。

本製品を接続しているパソコンに付属の「RAID Guide」CD-ROMをセットしてください。



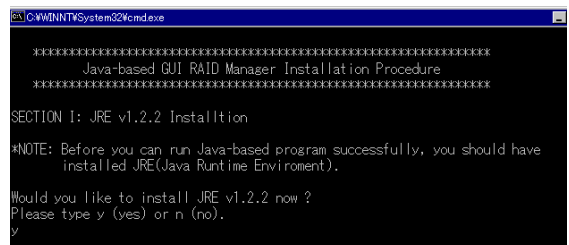
自動的にセットアップランチャーが起動し以下の画面が表示されたら、「RAID Guide について」を選択し、「セットアップの起動」ボタンをクリックしてください。

1. 「RAID Guide について」を選択
2. 「セットアップの起動」をクリック

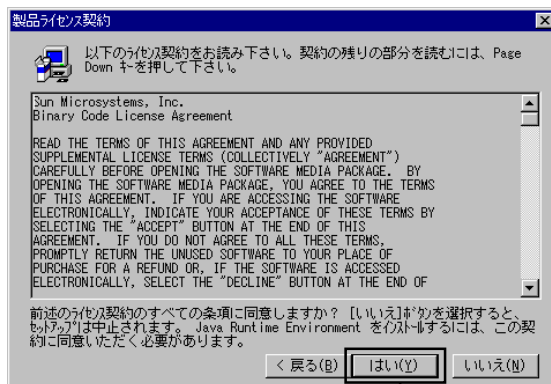


セットアップランチャーが自動起動しない場合は、マイコンピュータを開き、「RAID Guide」CD-ROMのアイコンをダブルクリックしてください。

DOSウィンドウが開きJava Runtime Enviomentのインストールを行うかを聞いてきますので必要な場合には「Y」キーを押した後に「Enter」キーを押してください。Java Runtime Envioment のインストールが開始されます。(RAID Guideを動作させるためにはJava Runtime Enviomentをインストールしておく必要があります。)



しばらくすると製品ライセンス契約の画面が表示されます。内容をご確認の上、同意する場合は「はい」ボタンをクリックしてください。(ここで、「いいえ」をクリックすると、インストールが中断されます)



「はい」ボタンをクリック

インストール先を選択する画面が表示されます。特に問題がない場合はそのまま「次へ」ボタンをクリックしてください。

なお、ここで「参照」ボタンをクリックするとインストール先を指定することができます。(コンピュータに詳しい知識のある方向け)



特に問題のない場合はそのまま
「次へ」ボタンをクリック

インストールが開始されます。この後は画面の指示に従ってインストールを進めてください。

Java Runtime Environmentをインストール後に再起動を促すメッセージが表示されたら、再起動を行ってください。その場合は、再起動後に再度セットアップランチャーを起動して手順 を参照して「セットアップの起動」を選択し、手順 の画面が表示されたら、「N」キーを押した後に「Enter」キーを押してください。

Java Runtime Environment のインストールが終了すると、DOS プロンプトが表示され、引き続き「RAID Guide」のインストールを行うかを聞いてきますので、「Y」キーを押し、「Enter」キーを押してください。

```
C:\WINNT\System32\cmd.exe

*****
Java-based GUI RAID Manager Installation Procedure
*****

SECTION I: JRE v1.2.2 Installation

*NOTE: Before you can run Java-based program successfully, you should have
        installed JRE(Java Runtime Environment).

Would you like to install JRE v1.2.2 now ?
Please type y (yes) or n (no).
y

Start to install JRE v1.2.2 .....

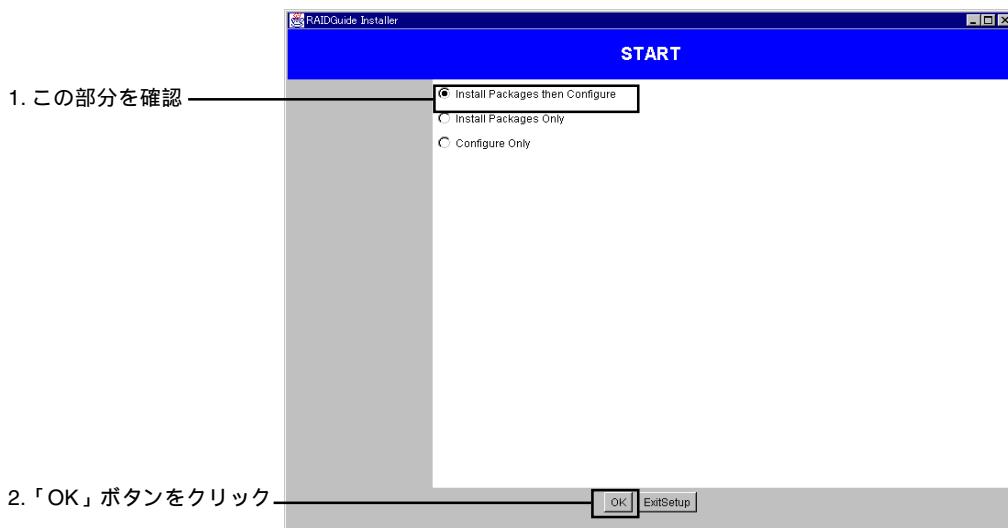
SECTION II: Java-based GUI RAID Manager Installation

*NOTE: To install and configure Java-based GUI RAID Manager successfully,
        We highly recommend you refer to README in advance.

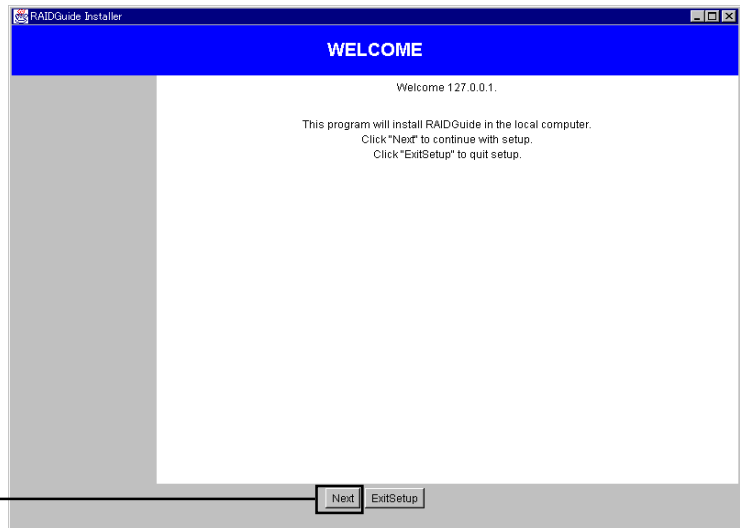
Would you like to install Java-based GUI RAID Manager now ?
Please type y (yes) or n (no).
y
```

2

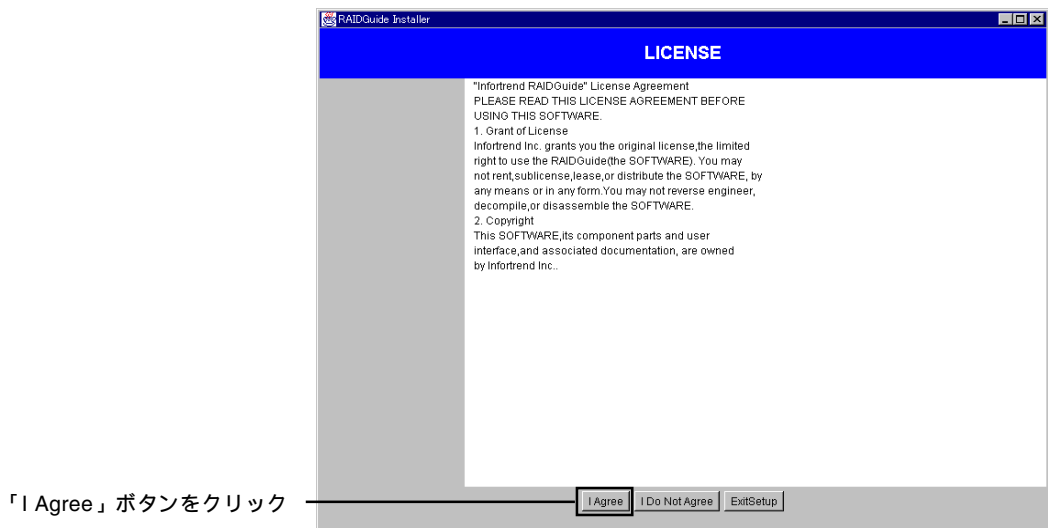
次のような画面が表示されますので、「Install Packages then Configure」のラジオボタンが「ON()」であることを確認して、「OK」ボタンをクリックしてください。



下の画面が表示されます。「Next」ボタンをクリックしてください。

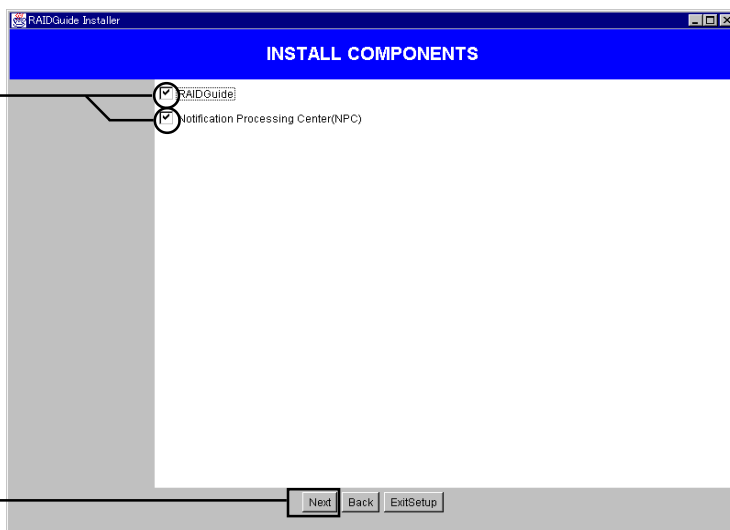


License Agreement が表示されます。内容を確認し、同意する場合は「I Agree」をクリックしてください。(ここで「I Do Not Agree」を選択した場合、インストールすることができません)



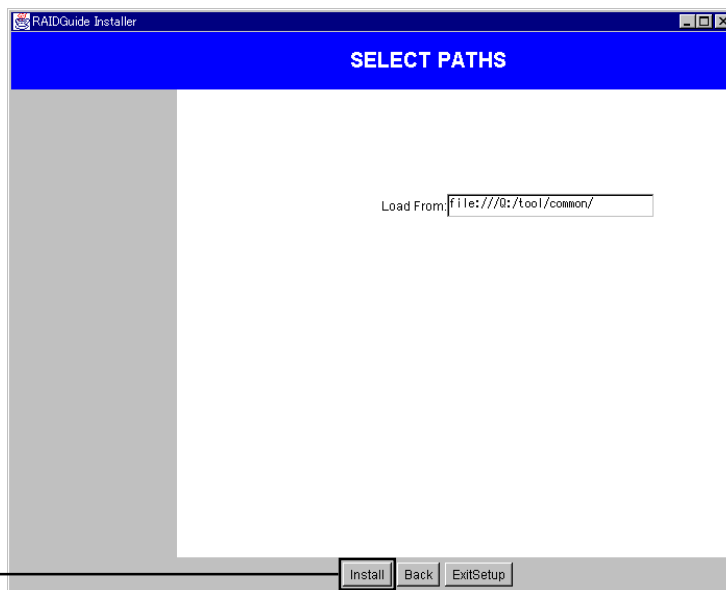
下の画面が表示されます。「RAID Guide」および「Notification Processing Center(NPC)」の左側のチェックボックスにチェック「レ」がはいていることを確認して、「Next」ボタンを押してください。

1. この部分を確認し、チェックが入っていない場合はチェックしてください。



2. 「Next」ボタンをクリック

インストール元を選択する画面が表示されます。特に問題がない場合はそのまま「Install」ボタンをクリックしてください。

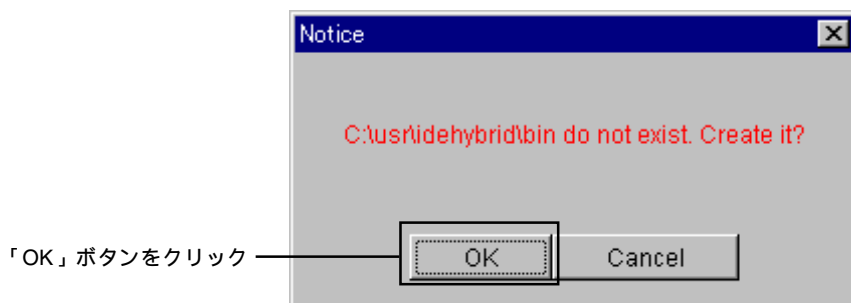


- 「Install」ボタンをクリック



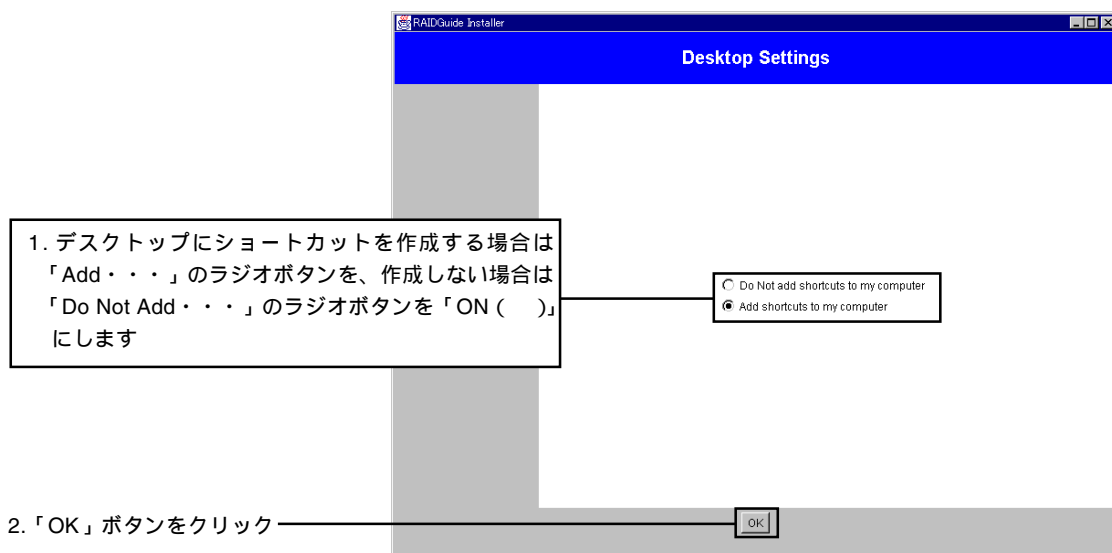
ご注意

ご使用の環境により、インストール中に以下のようなメッセージが表示される場合がありますが、その場合は「OK」ボタンをクリックして作業を進めてください。



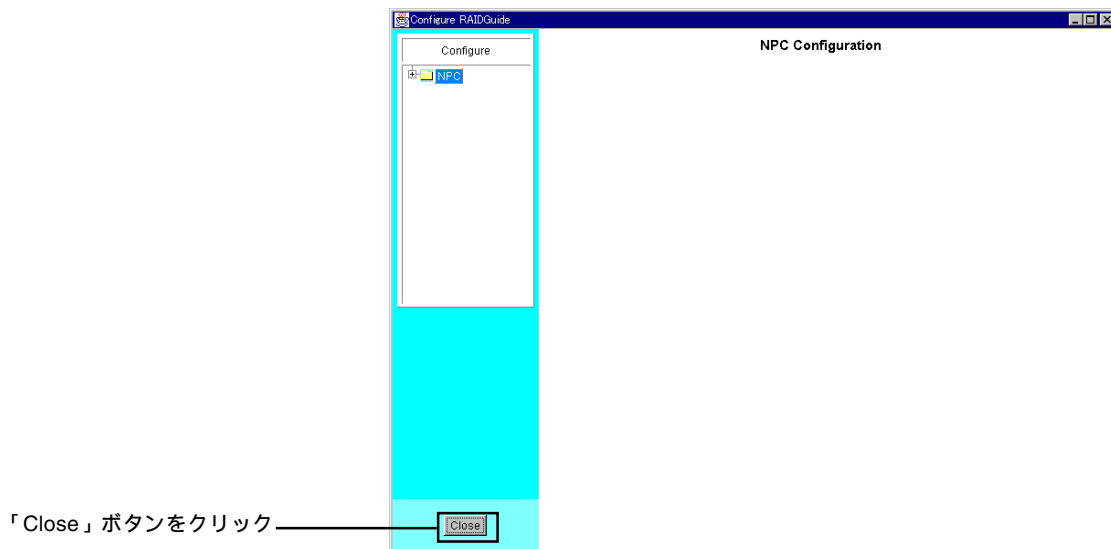
2

次のような画面が表示されます。デスクトップにショートカットを作成する場合は「Add shortcuts to my computer」のラジオボタンを「ON ()」にして、「OK」ボタンをクリックしてください。

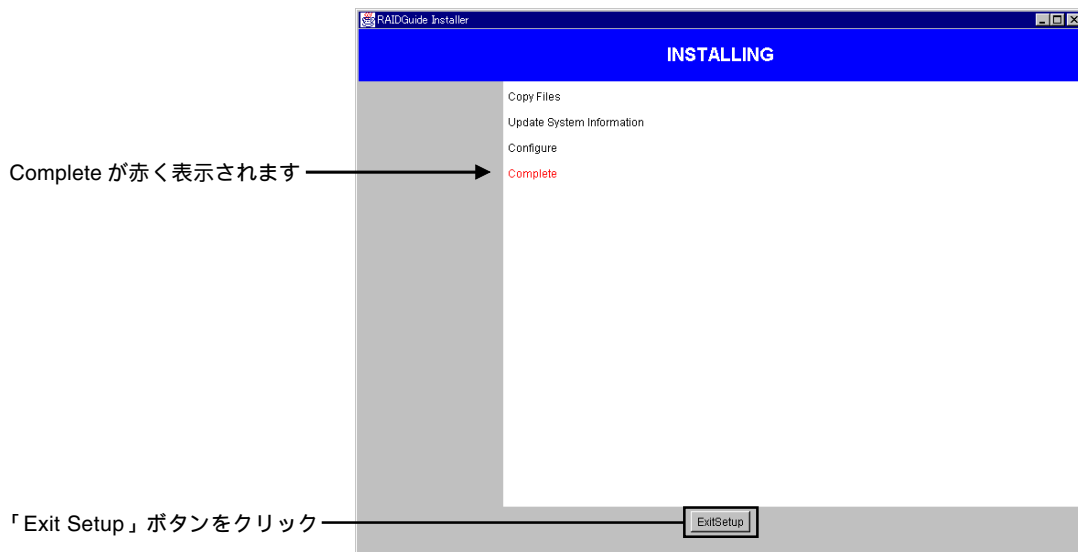


必要なファイルがコピーされ、終了すると以下の画面が表示されます。「Close」ボタンをクリックしてください。

2



システムの更新が終了すると「Complete」の文字が赤くなりますので、「Exit Setup」ボタンをクリックしてください。



2.2 RAID Guide による管理

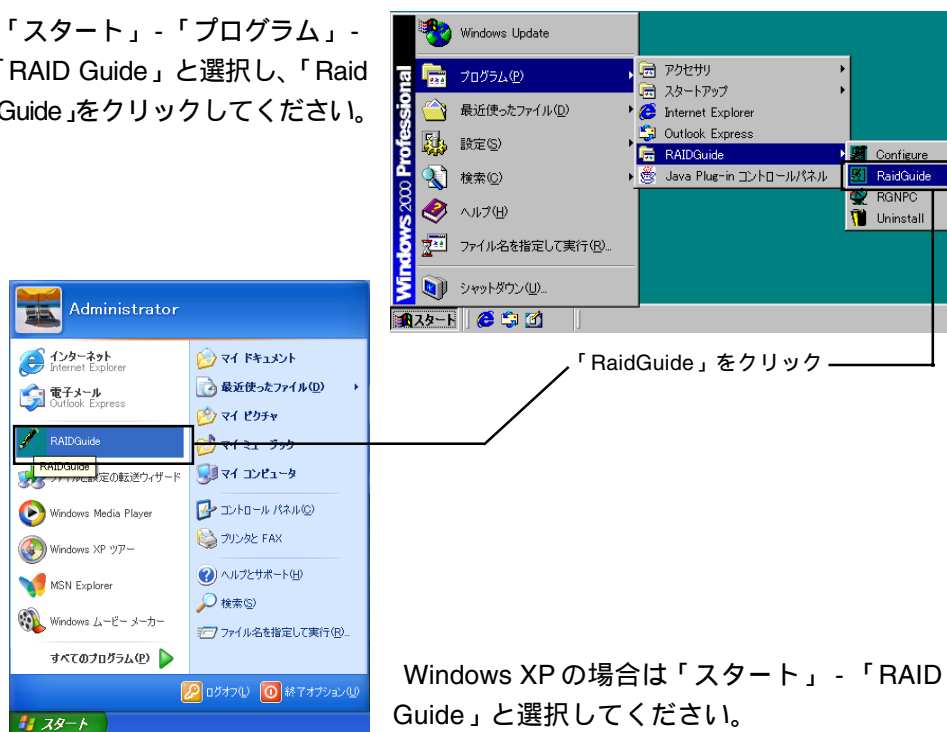
本製品はRAID Guide GUIマネージャーを使用してパソコンから本製品内のRAIDアレイの状態を監視し、管理を行うことができます。管理を行うパソコンはホスト（本製品と直接接続しているパソコン）、クライアント（ネットワーク経由で本製品にアクセスするパソコン）のいずれからでも行えます。ただし、LAN経由でリモート接続を行うクライアントは、ホストパソコンと同一セグメント内になければなりません。ここでは、ホストパソコンからの起動手順および、ネットワーク経由での起動手順を順番にご説明し、その後に管理メニューについてご説明します。

2.2.1 ホストパソコンから RAID Guide を起動する

ホストパソコンから RAID Guide を起動する場合の手順は以下の通りです。

本製品をホスト側のパソコンに接続していない場合は、いったんホスト側のパソコンの電源を切った後に接続しておいてください。SCSIインターフェースはホットプラグに対応していないため、パソコンの電源が入った状態で接続しても本製品は認識されません。

「スタート」 - 「プログラム」 - 「RAID Guide」と選択し、「Raid Guide」をクリックしてください。



右の画面が表示されます。「Local」ボタンをクリックしてください。

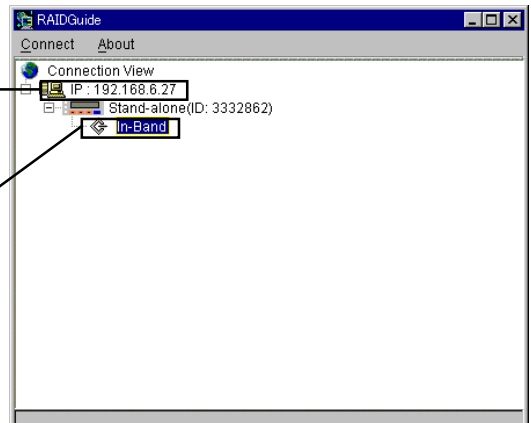


「Local」ボタンをクリック

以下の画面が表示されます。設定を行っているパソコンのIPアドレスをクリックして展開します。本製品のアイコン「Stand-alone (ID:xxxx)」の下に接続デバイス名のアイコンが表示されるので、「In-Band」をダブルクリックしてください。

1. このアイコンをクリック

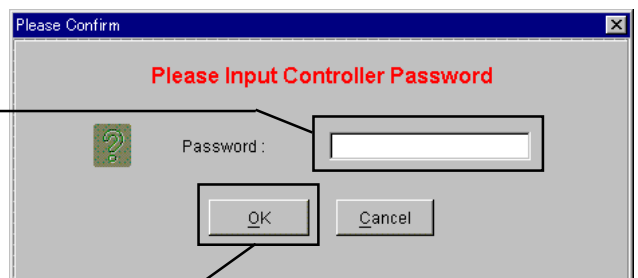
2. このアイコンをダブルクリック



パスワードを入力する画面が表示されます。既にコントロールパネルからパスワードを設定している場合はそのパスワードを入力して「OK」ボタンをクリックしてください。パスワード入力欄を空白のままにして「OK」ボタンをクリックしてください。

1. パスワードを設定している場合はその値を入力
設定していない場合は空白のまま、

2. 「OK」ボタンをクリック



RAID Guideが起動します。次に、管理メニューの内容についてご説明いたします。「2 . 2 . 3 管理メニューについて」へお進みください。

2.2.2 ネットワーク経由で RAID Guide を起動する

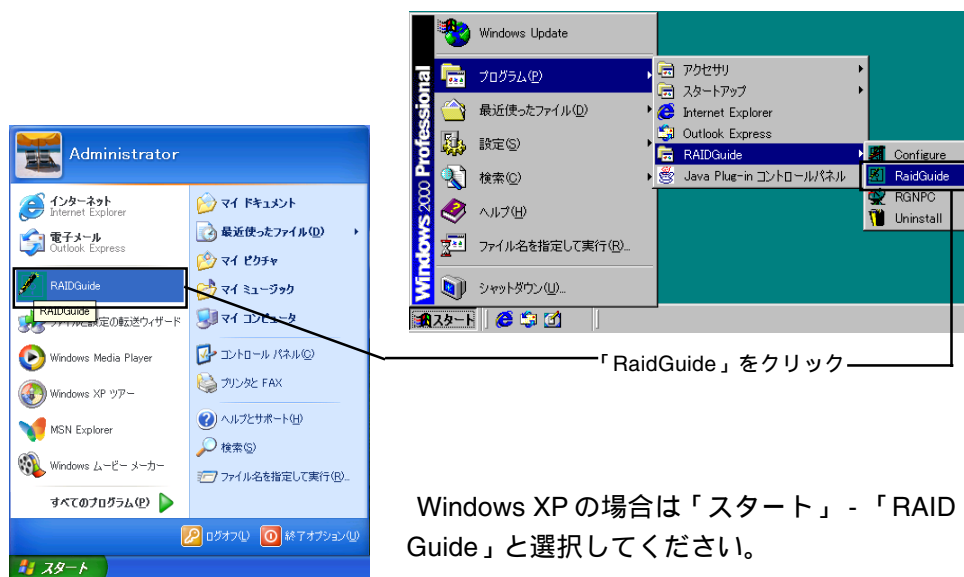
ネットワーク経由で RAID Guide を起動する前に、以下の点をご確認ください。(便宜上、本製品が接続されているパソコンをホストパソコン、ネットワーク経由でリモート接続を行うパソコンをクライアントパソコンとします。)

- ・ホストパソコン、クライアントパソコン共に RAID Guide がインストールされている必要があります。
- ・RS-232C ケーブルはホストパソコンに接続されている必要があります。
- ・TCP/IP プロトコルで動作しますので、それぞれのパソコンに TCP/IP プロトコルがインストールされている必要があります。
- ・セグメントが異なる (ルータを越えて) 通信は行うことができません。同一セグメントのみ通信を行うことができます。

クライアントパソコンから RAID Guide を起動する場合の手順は以下の通りです。

本製品をホスト側のパソコンに接続していない場合は、いったんホスト側のパソコンの電源を切った後に接続しておいてください。SCSI インターフェースはホットプラグに対応していないため、パソコンの電源が入った状態で接続しても本製品は認識されません。

クライアントパソコン上で「スタート」 - 「プログラム」 - 「RAID Guide」と選択し、「Raid Guide」をクリックしてください。



Windows XP の場合は「スタート」 - 「RAID Guide」と選択してください。

以下の画面が表示されますので、本製品が接続されているコンピュータのIPアドレスを入力して「OK」ボタンをクリックしてください。



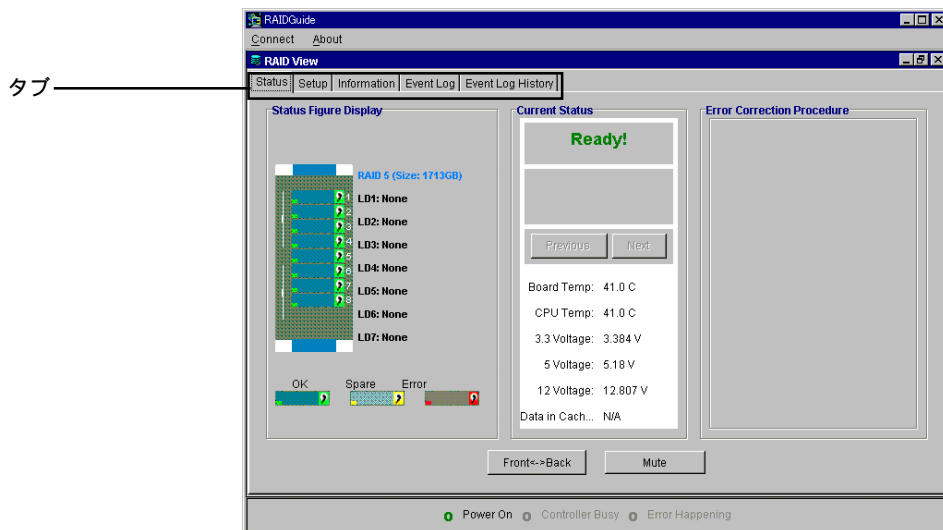
1.IP アドレスを入力

2.「OK」ボタンをクリック

この後の手順は「2.2.1 ホストパソコンから RAID Guide を起動する」の手順 からと同じです。該当箇所をご参照の上設定を行ってください。

2.2.3 管理メニューについて

ホスト側で起動した場合も、クライアント側で起動した場合も、はじめに RAID Guide 監視用ウィンドウが、Status を表示した状態で開きます。



Stsatus

このタブでは、現在の RAID レベル、RAID アレイのサイズ、ハードディスクの状態 (OK、Spare、Error)、アレイの状態、エラーイベントの通知、エラーに対する推奨解決方法が表示されます。

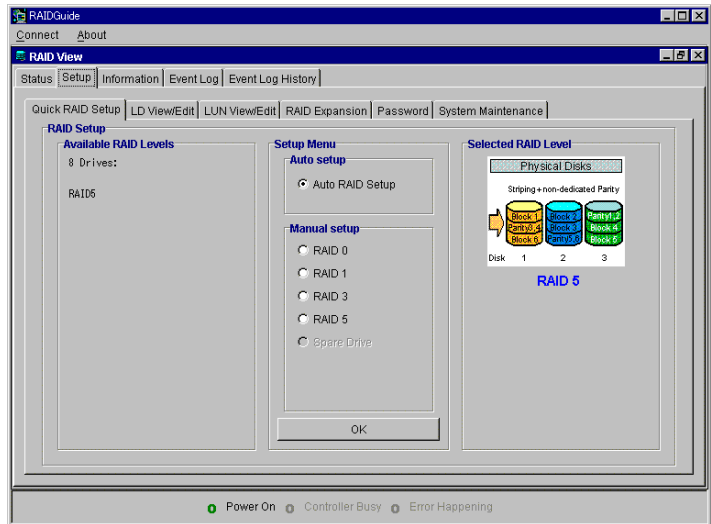
また、障害発生時の警告音を次の障害が発生するまで OFF にするボタンがあります。

Setup

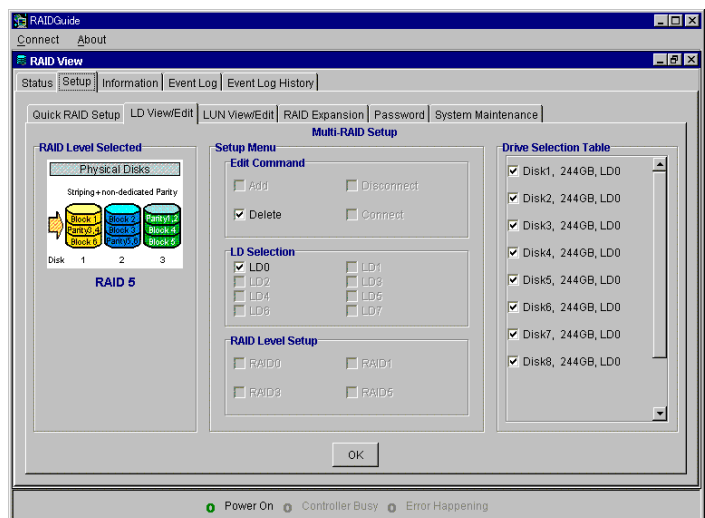
Setup には、以下の 6 つのサブメニューがあります。

「Quick RAID Setup」「LD View/Edit」「LUN View/Edit」「RAID Expansion」
「Password」「SystemMaintenance」

2



Quick Raid Set Up ウィンドウでは本製品内部のディスクを 1 つの論理ドライブ RAID の構築を行う場合に使用します。この設定を行った場合、自動的にその論理ドライブに使用可能な論理ユニット番号が割り振られます。



LD View/Editウィンドウでは、RAIDレベルの設定を細かく行うことができます。論理ドライブに使用するディスクの選択もできるので、複数のRAIDアレイを作成できます。既に作成した論理ドライブに使用しているドライブは、他の論理ドライブ作成の際には選択できない状態になっています。

Quick RAIDSetupは自動的に全てのドライブを1つの論理ドライブをしてアレイを構築するのに対して、LD View/Editは複数の論理ドライブを作成し、それぞれの論理ドライブにRAIDレベルを設定できます。このとき選択されなかったハードディスクは、グローバルスペアドライブになります。例えば、8台のハードディスクのうち6台しか論理ドライブに使用していないといった場合に、残りの2台はグローバルスペアドライブとなります。

⚡ 重要なご注意

Quick RAID SetupでRAIDレベルを再設定する場合は、本製品にセットしてあるハードディスク内の全てのデータが削除されます。運用には十分ご注意ください。また、全てのドライブを使用して論理ドライブを作成している状態から個別に論理ドライブを作成する場合も、全てのデータは消去されます。

設定時は適切なチェックボックスにチェックを入れてください。「delete」にチェックを入れると、論理ドライブの構成およびデータが全て消去されます。

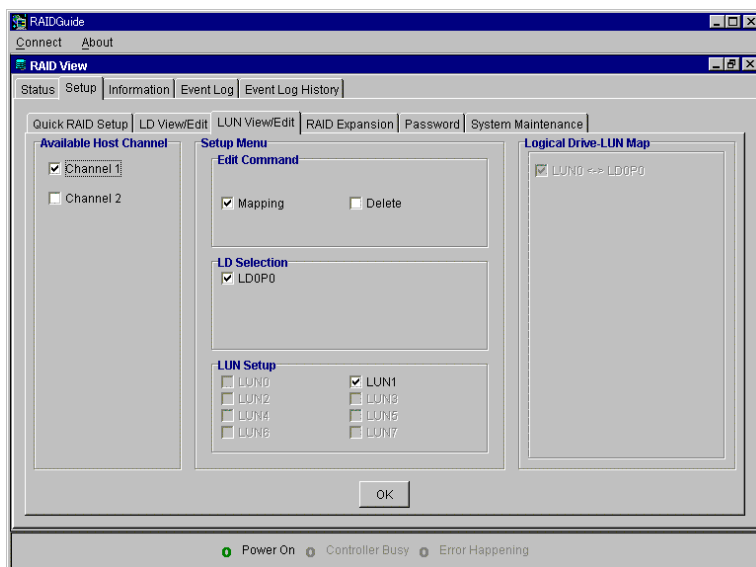
! ポイント

- Quick Raid SetUp右側およびLD View / Editウィンドウ内左側の図は、ウィンドウ内で選択されているRAIDレベルの説明です(現在、運用されているRAIDレベルではありません)。
- スペアドライブを追加したい場合や、RAIDレベルを変更したい場合には、「Add」をチェックし、論理ドライブを選択後に、スペアドライブと、新しいRAIDレベルをリストから選択し、「OK」ボタンを押してください。パスワードの確認画面が表示されるのでパスワードを入力し(設定していない場合は空欄のまま)「OK」ボタンをクリックしてください。Status画面に切り替わり、進行状況が表示されます。

確認画面が表示されますので、パスワードを入力(設定していない場合は空白のまま)

「OK」ボタンをクリック





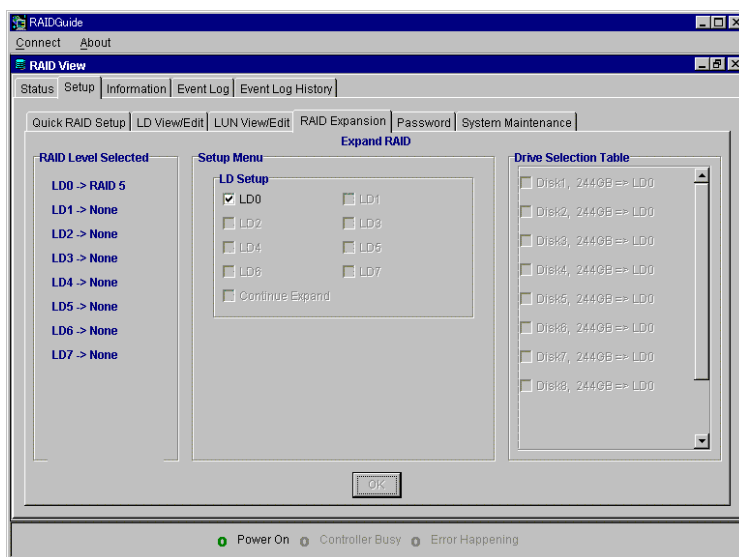
LUN View/Edit ウィンドウでは、作成した論理ドライブまたは、論理ドライブ内のパーティションで区切られた各ボリュームに論理ユニット番号 (LUN) を割り振ることができます。ここではチャンネルを Channel 1、Channel 2 から選択することができますが、本製品は Channel 2 はサポートしていませんので、必ず Channel 1 をチェックしてください。

論理ユニット番号を割り振る場合は、左側のリストで「Channel1」をチェックして、中央のリストで「Mapping」を選び、LUN を割り振る論理ドライブまたはパーティションを選択し、LUN を選択後に、「OK」ボタンを押してください。パスワードを入力するウィンドウが表示されるので、パスワードを入力して「OK」ボタンを押します。



ご注意

複数の論理ドライブを作成した場合や、論理ドライブをパーティションで区切っている場合は、論理ユニット番号を割り振らないとコンピュータ側からアクセスできないことに注意してください。)



RAID Expansion ウィンドウでは、論理ドライブに指定していないドライブがある場合に、そのドライブを既に作成済みの論理ドライブに加えて、論理ドライブの総容量を拡張することができます。「Setup」メニューから拡張する論理ドライブを選択し、「Drive Selection Table」で追加したいドライブを選択し、(選択可能なドライブがある場合は、チェックボックスがチェック可能な状態になります。複数のドライブを選択することも可能です)「OK」ボタンを押します。

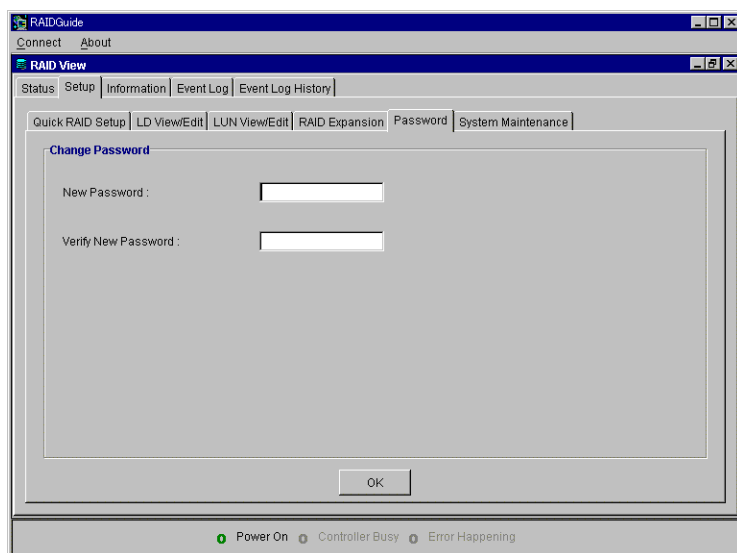
パスワードを入力するウィンドウが表示されるので、パスワードを入力して「OK」ボタンを押してください。

Status ウィンドウに切り替わり、進行状況が表示されます。

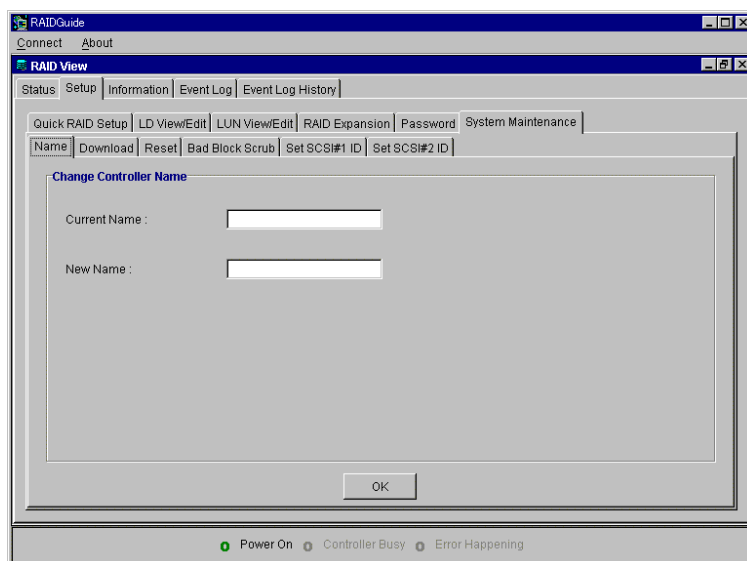


ご注意

追加されたドライブの容量は、新しいパーティションとして登録されますので、必ず新しい論理ユニット番号を割り振ってください。

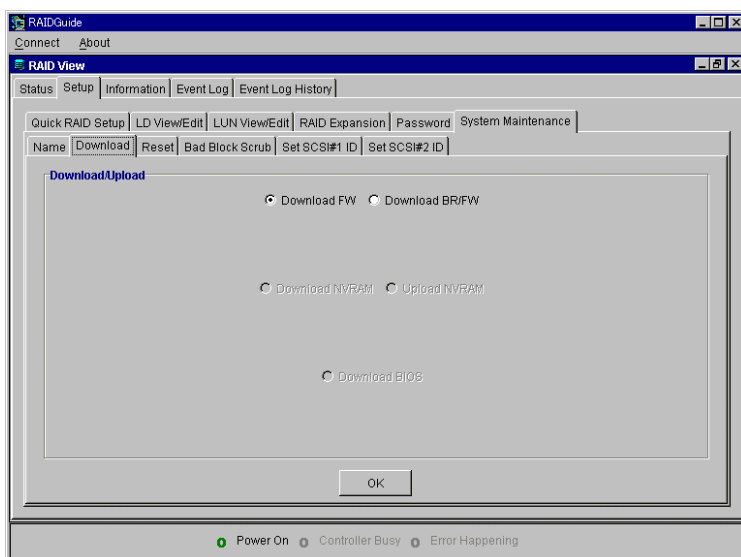


Passwordウィンドウでは、RAID Guideソフトウェアが本製品にアクセスする際のパスワードの設定・変更ができます。「New Password」の欄と、「Verify New Password」の欄にパスワードを入力し、「OK」ボタンをクリックします。



System Maintenance ウィンドウでは、本製品のコントローラに関連するツールが用意されています（Name、Download、Reset、Bad Block Scrub、Set SCSI / Fibre ID）。

Name サブウィンドウではコントローラに名前をつけることができます。既に名前が付いている場合は「Current Name」フィールドにその名前が表示されます。名前を設定・変更する場合は、「New Name」フィールドに新しい名前をいれ、「OK」ボタンを押してください。

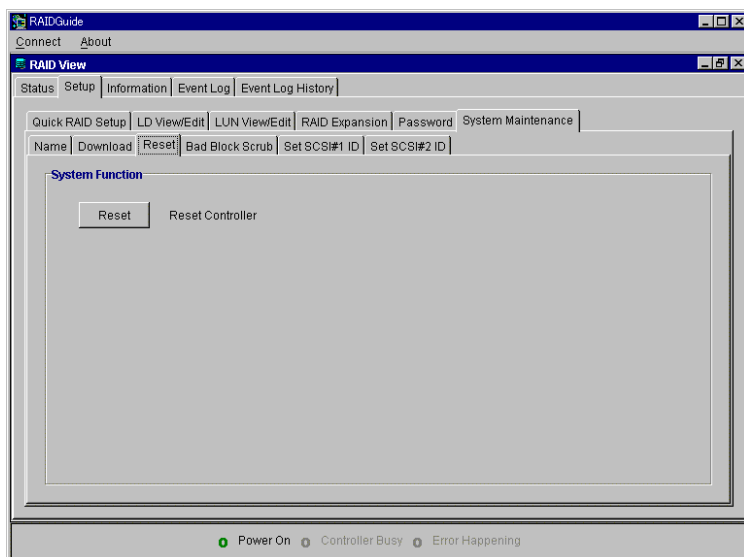


Downloadサブウィンドウではコントローラのファームウェアのアップグレードおよびブートレコードを行うことができます。「Download FW (ファームウェアのダウンロード)」もしくは「Download BR/FW (ブートレコード/ファームウェアのダウンロード)」を選択してください。

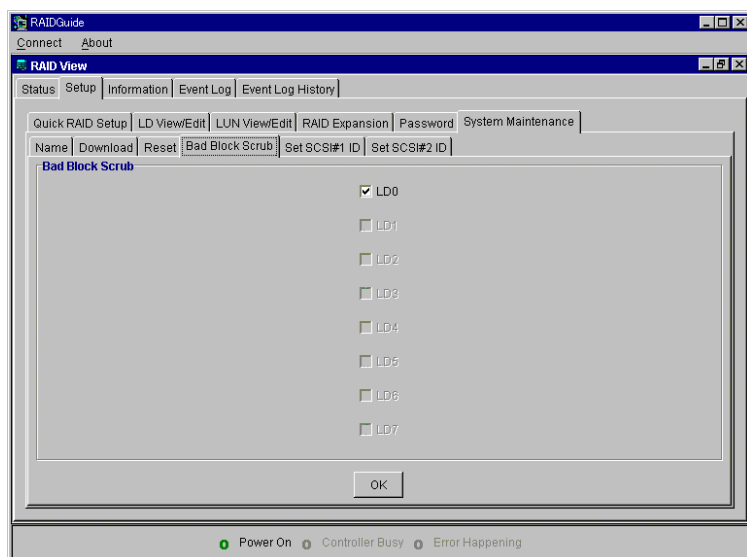


重要なお注意

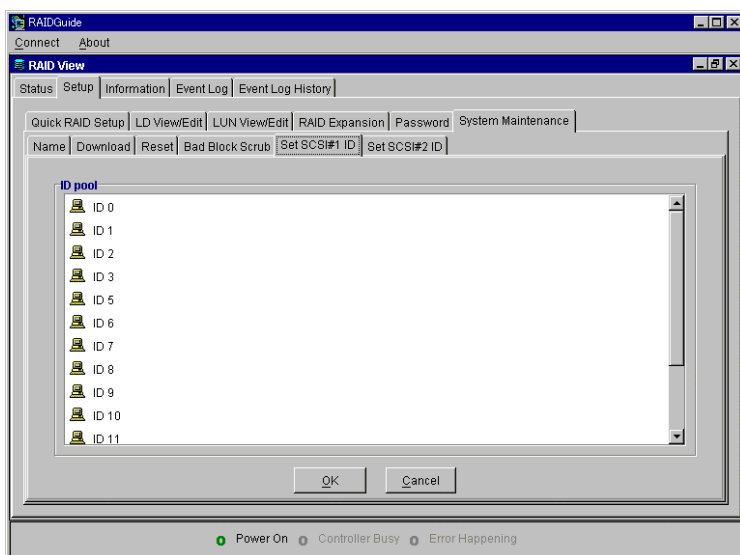
特に弊社からファームウェアのアップグレードの告知がない限りはこの機能はご使用にならないでください。アップグレードの失敗はコントローラに深刻なダメージを与えます。



reset サブウィンドウからはシステムの再起動を行うことができます。この機能は SCSI ID の変更など、システム設定を変更した場合に設定を反映させるために使用します。リセットボタンを押した後にパスワードの確認画面が表示されるのでパスワードを入力し「OK」ボタンを押してください。

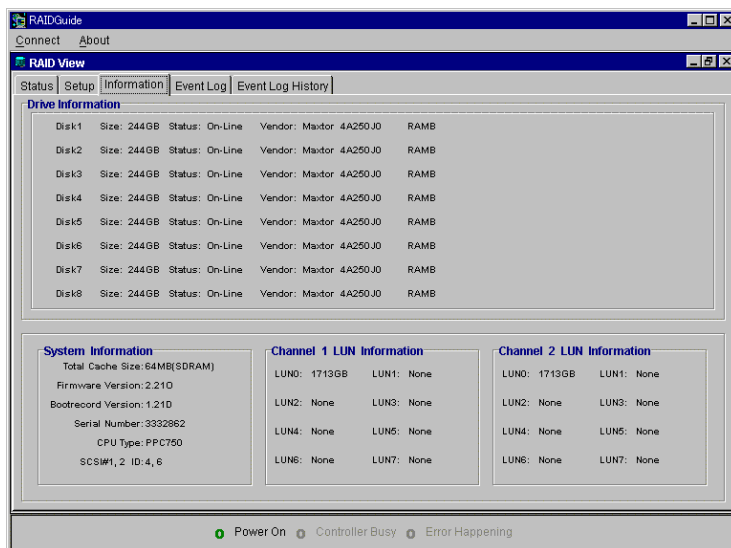


Bad Block Scrub サブウィンドウでは、論理ドライブ内をスキャンし、不良セクタを検出した場合、そのセクタはデータの書き込みに使用せず、正常なセクタのみ使用してデータの安全性を高めます。中央のチェックボックスで、スキャンする論理ドライブをチェックし「OK」ボタンを押します。



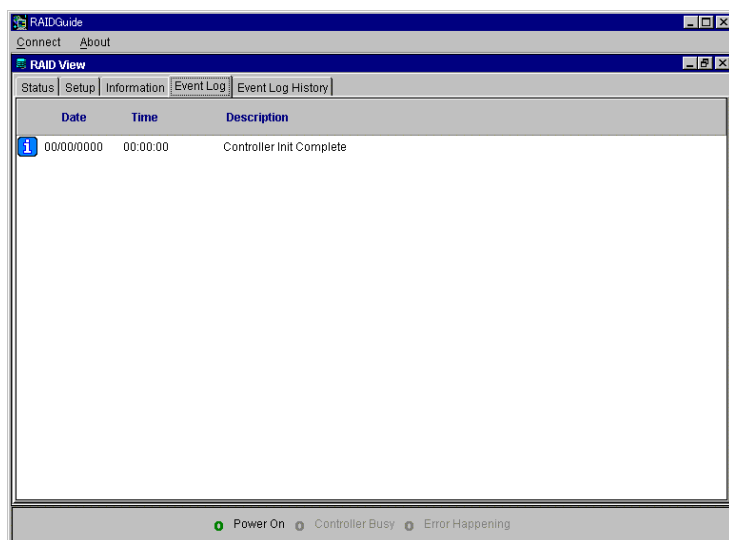
Set SCSI Fibre IDサブウィンドウでは、本製品デフォルトのSCSI ID「0」を「0」から「15」までの範囲で再設定することができます。設定を有能にするには、本製品をリセットしなければなりません。

Information



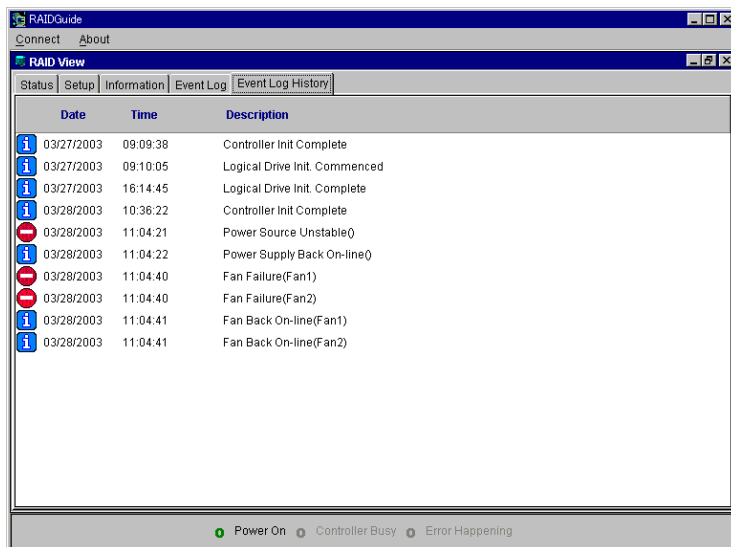
このウィンドウでは、本製品内に設定されているハードディスクドライブの情報、システムのキャッシュサイズやファームウェアのバージョン、シリアルナンバー、CPUの種類、SCSI ID、論理ユニット番号などの情報が表示されます。このウィンドウでは設定の変更はできません。

Event Log



このウィンドウでは、本製品電源投入後または再起動後から現在までに行われた設定等のイベントの記録が表示されます。

Event Log History



このウィンドウでは、過去 1000 件までのイベントのログが記録されています。

2 . 3 障害発生時の通知機能について

RAID Guide マネージャには前節でご説明した機能のほかに、障害発生時に障害内容を通知するように設定する機能があります。この機能を使用すると、障害を解除するまで通知を続けます。なお、クライアントパソコンから通知機能の設定を行う場合、「RGNPC」はホストパソコン上で起動・実行しなければ設定が有効になりません。

通知方法には次の 2 種類があります。

- メッセージサービスを使用した通知機能
- E-Mail を使用した通知機能

その他の通知機能につきましてはサポート外となっております。

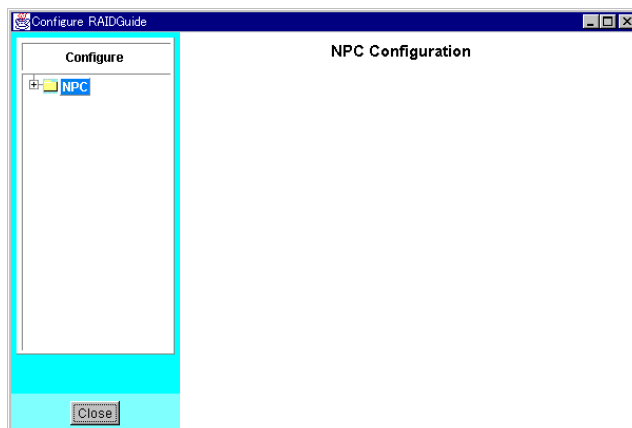
設定プログラムの起動と終了

障害通知先の設定は「Configure RAID Guide」プログラムにて行います。

起動方法

「スタート」-「プログラム」-「RAIDGuide」の順にポイントして「Configure」をクリックします。

次のような画面が表示されますので「NPC」の左側にある「+」をクリックして、展開される各メニューから設定を行います。(各メニューの設定方法については次ページ以降をご参照ください。)



終了方法

設定が終了したところで「Close」ボタンをクリックしてプログラムを終了してください。

「スタート」「プログラム」「RAIDGuide」の順にポイントして、「RGNPC」をクリックして設定を有効にします。

メッセージサービスを使用した通知機能の設定

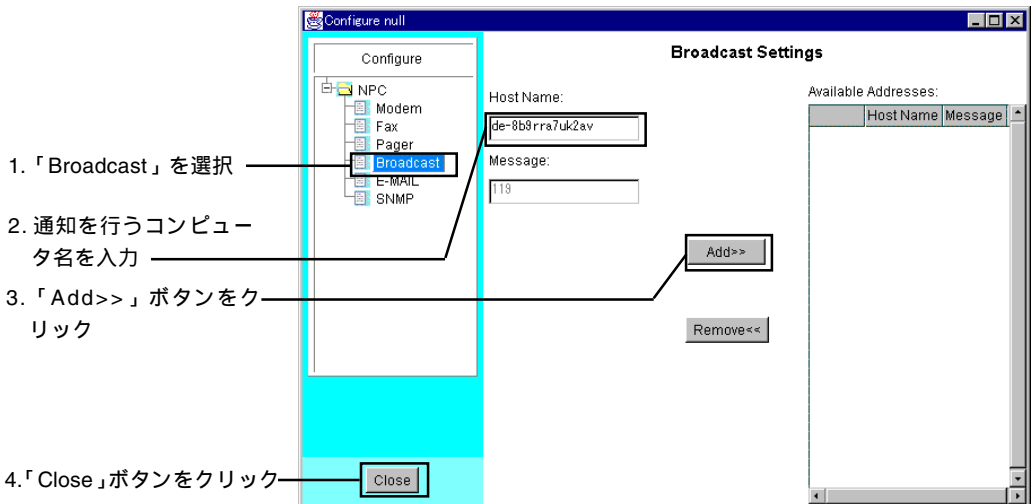
メッセージサービスではエラーメッセージを複数のコンピュータへ通知するように設定することができます。

設定方法

「スタート」-「プログラム」-「RAIDGuide」の順にポイントして「Configure」をクリックし「NPC」の左側にある「+」をクリックして、メニューが展開されたら、「Broadcast」を選択してください。

以下の画面が表示されたら、「Host Name」の欄に通知を行うコンピュータのホスト名を入力します。

「Add>>」ボタンをクリックします。



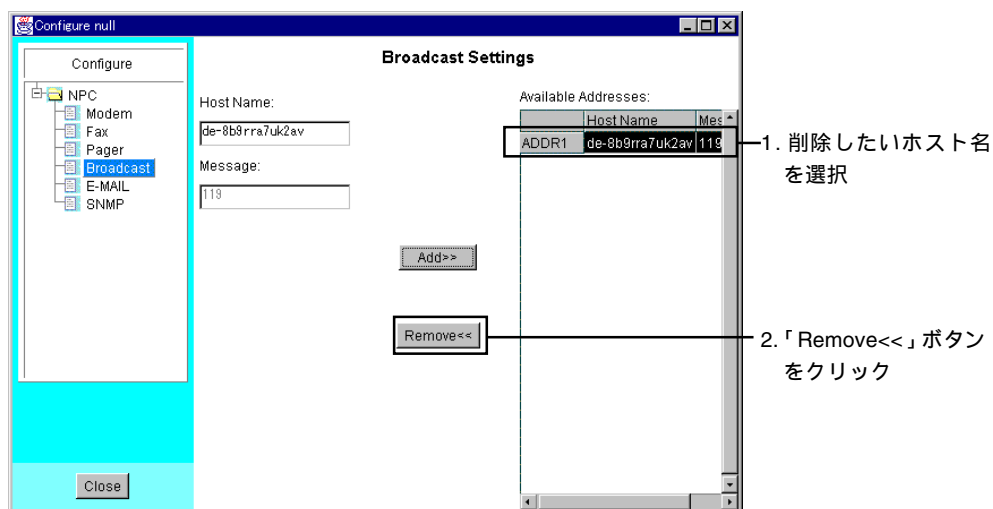
通知先の設定が終了したところで「Close」ボタンをクリックしてプログラムを終了してください。

「スタート」「プログラム」「RAIDGuide」の順にポイントして、「RGNPC」をクリックして設定を有効にします。以上で設定は終了です。(最後にこの操作を行わなければ設定は有効になりませんのでご注意ください)

設定を変更した場合、一度「RGNPC」を終了して、再度「RGNPC」を実行してください。「RGNPC」が起動している状態で、「RGNPC」を実行しても、設定は反映されません。

設定した通知先のホスト名を削除するには

設定した通知先のホスト名を削除する場合は、右側の「AvailableAddresses」の欄から、削除したいホスト名 (HostName) を選択し、「Remove<<」ボタンをクリックします。



障害発生時の対応方法につきましては「第6章 障害発生時の対応について」をご参照ください。

E-mail を使用した通知機能の設定

この設定を行うと、E-mailを使用してエラーメッセージの通知を行うことができます。通知を行うメールアドレスは携帯電話のメールアドレスも含め複数登録することができます。

設定方法

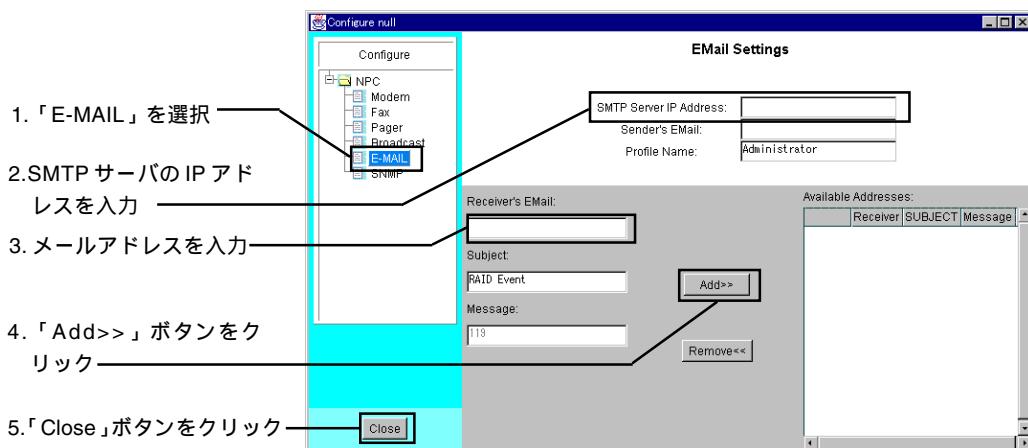
「スタート」-「プログラム」-「RAIDGuide」の順にポイントして「Configure」をクリックし「NPC」の左側にある「+」をクリックして、メニューが展開されたら、「E-MAIL」を選択してください。

以下の画面が表示されたら、「SMTP Server IP Address」の欄に、通知先に指定するメールアドレスがご使用のSMTPサーバのIPアドレスを入力します。

ホスト名は使用することができませんので、必ずIPアドレスを入力してください。

「Receiver's Email」の欄に通知を行いたいメールアドレスを入力します。

「Add>>」ボタンをクリックします。



通知先の設定が終了したところで「Close」ボタンをクリックしてプログラムを終了してください。

「スタート」「プログラム」「RAIDGuide」の順にポイントして、「RGNPC」をクリックして設定を有効にします。以上で設定は終了です。(最後にこの操作を行わなければ設定は有効になりませんのでご注意ください)

設定を変更した場合、一度「RGNPC」を終了して、再度「RGNPC」を実行してください。「RGNPC」が起動している状態で、「RGNPC」を実行しても、設定は反映されません。

ポイント



初期状態では差出人はraid_administrators@his_company.xxx(xxxはドメイン名がはいります)となっておりますが、「Sender 's EMail」の欄に任意のアドレスを登録することも可能です。

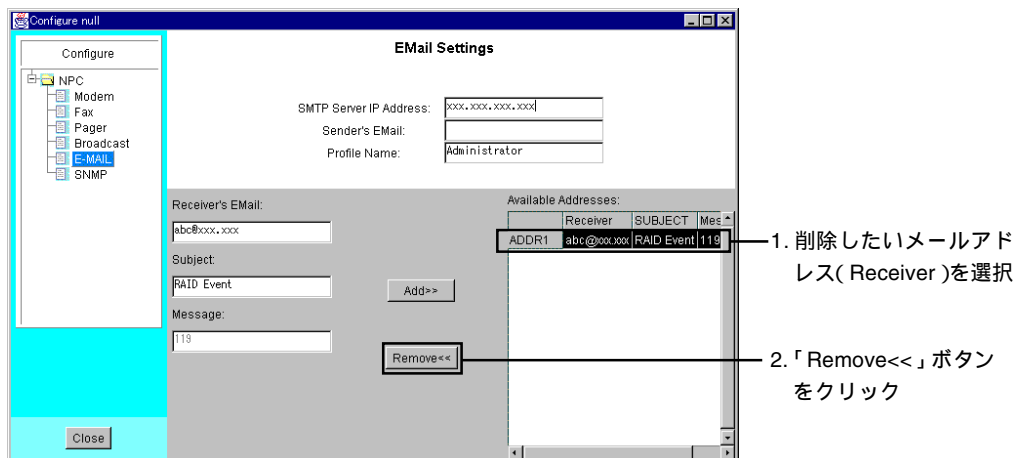
通知される内容は以下の通りです。

本機が接続されているコンピュータのIPアドレス
装置のシリアル番号
障害の発生日時
障害内容

なお、Subject欄は変更することができません。「RAID Event」のみとなります。

設定した通知先のメールアドレスを削除するには

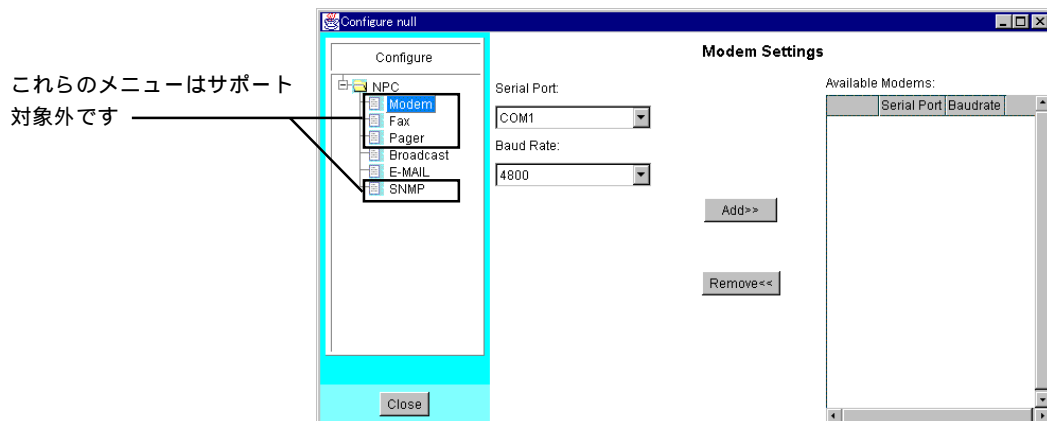
設定した通知先のメールアドレスを削除する場合は、右下側の「AvailableAddresses」の欄から、削除したいメールアドレス(Receiver)を選択し、「Remove<<」ボタンをクリックします。



障害発生時の対応方法につきましては「第6章 障害発生時の対応について」をご参照ください。

その他のメニューについて

本機では、その他の通知機能（「Modem」「Fax」「Pager」「SNMP」）につきましてはサポート外となっております。



2 . 4 Q&A 集

Configure で設定した内容が反映されない

RGNPC が既に実行されている場合は、一度「RGNPC」を終了させ、再度「RGNPC」を実行してください。

Broadcast メニューで設定を行ったコンピュータにエラー内容が通知されません。

本装置とコンピュータはRS-232Cで接続されている必要があります。接続をご確認ください。

通知サービスを行う場合には、「RGNPC」が起動している必要があります。接続をご確認ください。

通知先のコンピュータ名は正しいですか？もう一度確認してください。通知先のコンピュータは同一セグメント内にありますか？

同一セグメント以外のコンピュータへの通知はサポート外になっております。

本装置を接続しているコンピュータでMS-DOSプロンプトを起動し、PING コマンド（PING コンピュータ名）を使用して、通知先のコンピュータが応答するかご確認ください。

PING コマンドで応答がない場合には、「Lmhosts」などに、IP アドレスとホスト名の関連付けを行ってみるか、ネットワーク管理者にご相談ください。

セキュリティソフトなどのアプリケーションをインストールされていますか？

お使いのアプリケーションによっては、ファイヤーウォールなどに関する設定の変更が必要になる場合があります。詳しくはアプリケーションを製作・販売したメーカーへお問い合わせください。

Mailメニューで設定を行ったメールアドレスにエラー内容が通知されません。

本装置とコンピュータはRS-232Cで接続されている必要があります。接続をご確認ください。

通知サービスを行う場合、「RGNPC」が起動している必要があります。RGNPCが起動しているかご確認ください。

通知先のメールアドレスは正しいですか？もう一度確認してみてください。

本装置を接続しているコンピュータでMS-DOSプロンプトを起動し、PINGコマンド(PING コンピュータ名)を使用して、メールサーバが応答するかご確認ください。

PINGコマンドで応答がない場合には、「Lmhosts」等でIPアドレスと、ホスト名の関連付けを行ってみるか、ネットワーク管理者にご相談ください。

セキュリティソフトによっては、設定の変更が必要になる場合があります。詳しくはアプリケーションを製作・販売したメーカーへお問い合わせください。

NPCの設定をネットワーク経由で行うことは可能でしょうか。

ネットワーク経由で設定を行う場合には、次の点にご注意ください。

- ・RGNPCは本装置が接続されているコンピュータ上で実行してください。(本装置が接続されていないコンピュータ上でRGNPCを実行しても通知サービスは実行されません。)
- ・ネットワーク経由で設定の変更を行った場合は、本装置が接続されているコンピュータ上で「RGNPC」を起動しなおしてください。

第3章

ターミナルエミュレーション モードでの管理

ターミナルエミュレーションモードは本製品のRS-232CコネクタとパソコンのRS-232Cポート(COMポート)を付属のRS-232Cケーブルで接続し、ファームウェアベースのターミナルアレイ管理インターフェースを使用して、アレイの管理を行います。このモードはWindows環境でしかご利用になれません。本章ではターミナルエミュレーションモードでの管理方法についてご説明いたします。

3.1 VT100 ターミナルのセットアップ

VT100の動作環境

接続	RS-232Cポート(COM1、COM2)
プロトコル	RS-232(非同期)
ケーブル	RS-232Cケーブル
ボーレート(変調速度)	38400
データビット	8
ストップビット	1
パリティ	なし

例：Windows 環境で VT100 をセットアップする

ハイパーターミナルを起動します。

所在地情報の登録を行っていない場合には、次のような画面が表示されますので、市外局番の欄にお住まいの市外局番を入力して「OK」ボタンをクリックしてください。この画面が表示されない場合は手順 へお進みください。



設定を行った市外局番の確認画面が表示されますので、確認後「OK」ボタンを押してください。



以下の画面が表示されます。「名前」の欄に任意の名前を入力し、アイコンの欄から任意のアイコンを選択して、「OK」ボタンをクリックしてください。



「接続の設定」画面が表示されますので、「接続方法」MPプルダウンメニューより、装置が接続されているCOMポートを選択して、「OK」ボタンをクリックしてください。

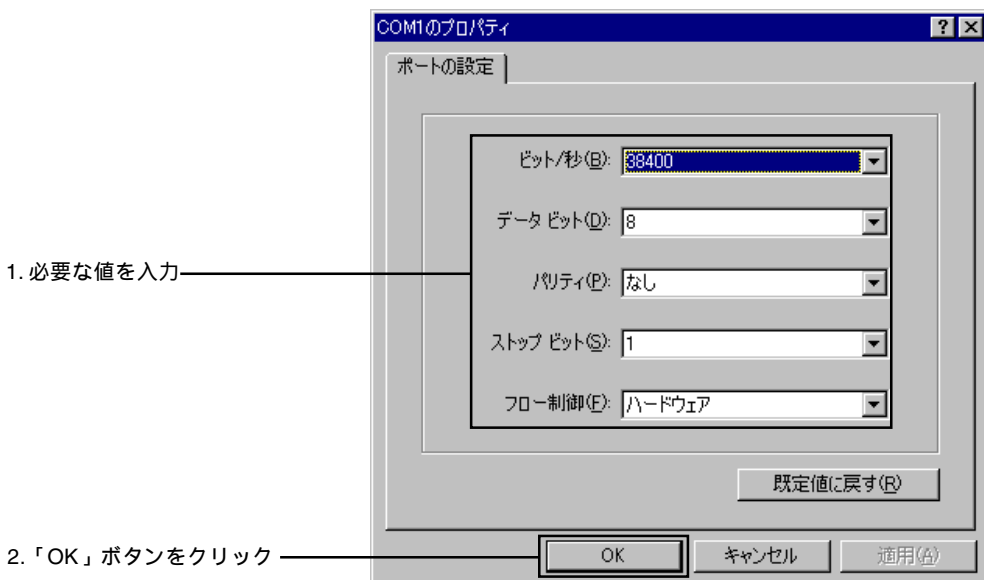


COM1 を選択した例

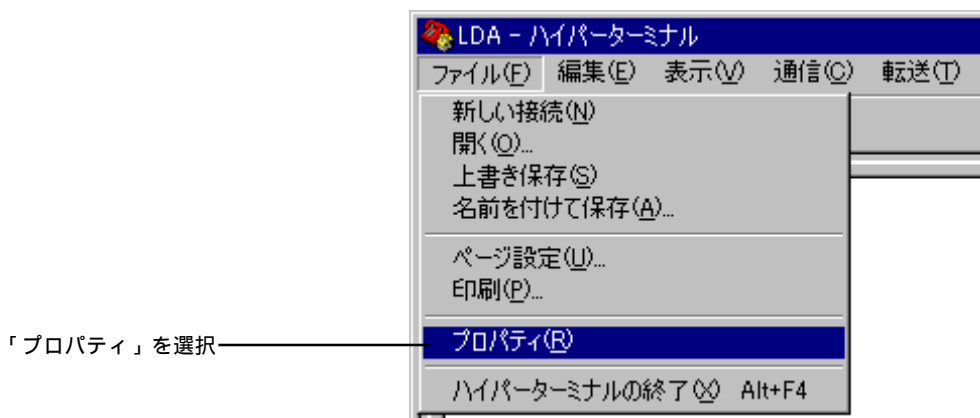
「COMxのプロパティ」画面が表示されますので、以下のように設定を変更して「OK」ボタンをクリックします。

ビット/秒	: 384000
データビット	: 8
パリティ	: なし
ストップビット	: 1
フロー制御	: ハードウェア

上記の設定値以外の値で設定を行っても動作しませんのでご注意ください。



ツールバーより「ファイル」をクリックし、「プロパティ」を選択します。



プロパティ画面が表示されますので、「設定」タブをクリックし「エミュレーション」の設定を「VT100」に変更し、「OK」ボタンをクリックします。

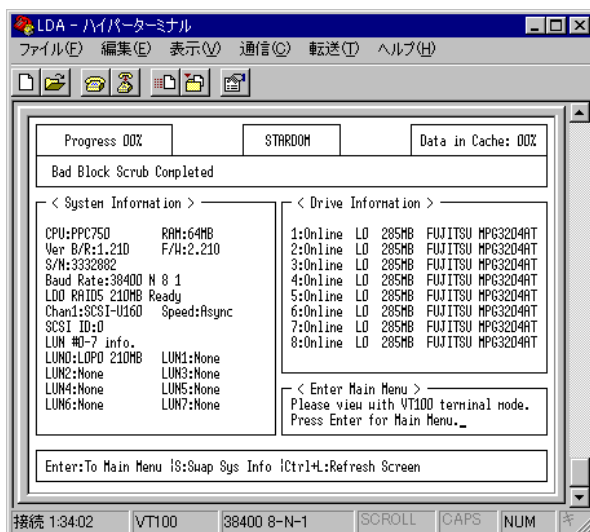
1. 「設定」タブをクリック

2. VT100 を選択

3. 「OK」ボタンをクリック

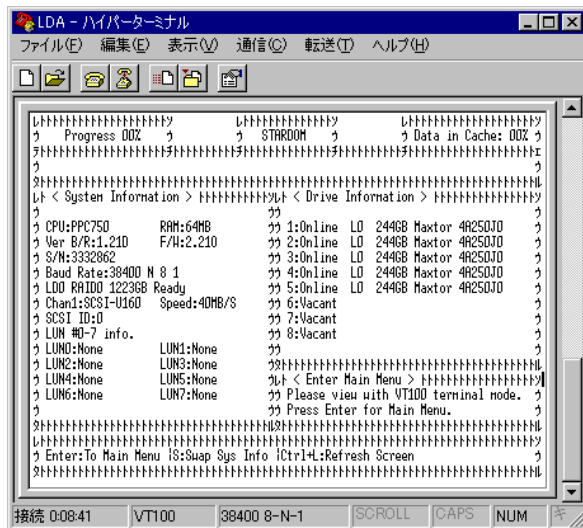


セットアップ終了後、本製品を再起動し、「Ctrl」キーと「L」キーを押して本製品とターミナルをリンクさせると、以下の画面が表示されます。確認後「ファイル」から、「名前を付けて保存」を選択して設定を保存してください。



Point ポイント

手順 で「Ctrl」キーと、「L」キーを押して本製品とターミナルをリンクさせた際に、画面内の罫線部分が以下のように正常に表示されない場合は、次の手順にてフォントの設定を変更すると、正しく表示されます。

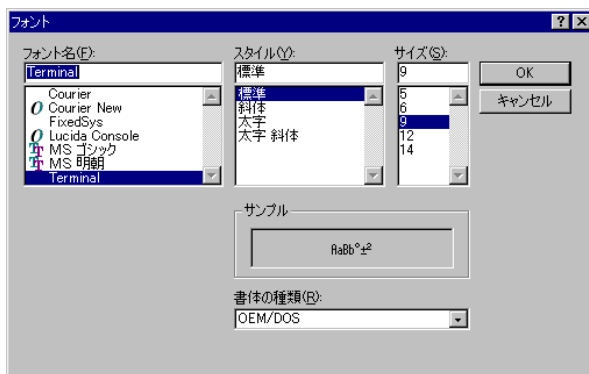


ツールメニュー内の「表示」をクリックして、「フォント」を選択します。



フォントの設定画面が表示されたら、次の項目を変更して「OK」ボタンをクリックしてください。

- 項目
- フォント名 : ターミナル
- スタイル : 標準
- サイズ : 9
- 書体の種類 : OEM/DOS



3.2 ファームウェアのアップデート

重要なご注意

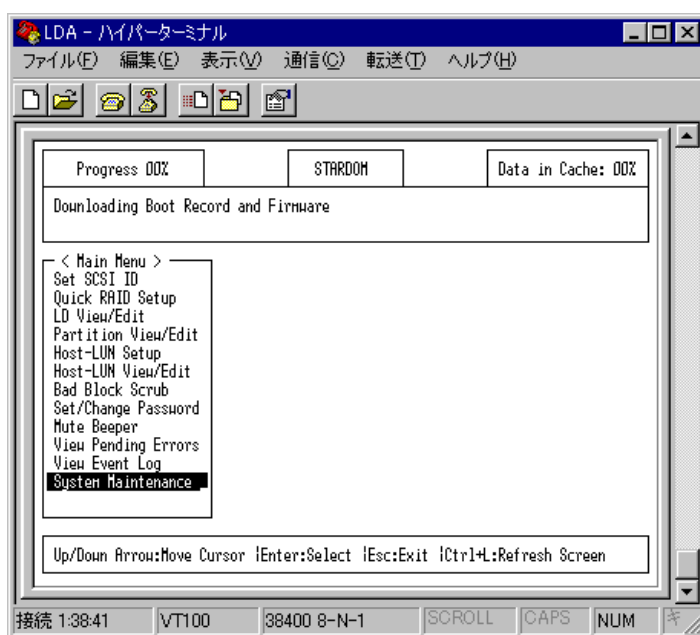
- ・本製品およびホスト側のパソコン動作中にファームウェアのアップデートを行うとデータの消失など予期しない結果が起こる場合があります。アップデートを行う前に本製品側の動作を完全に止めておいてください。

アップデート手順

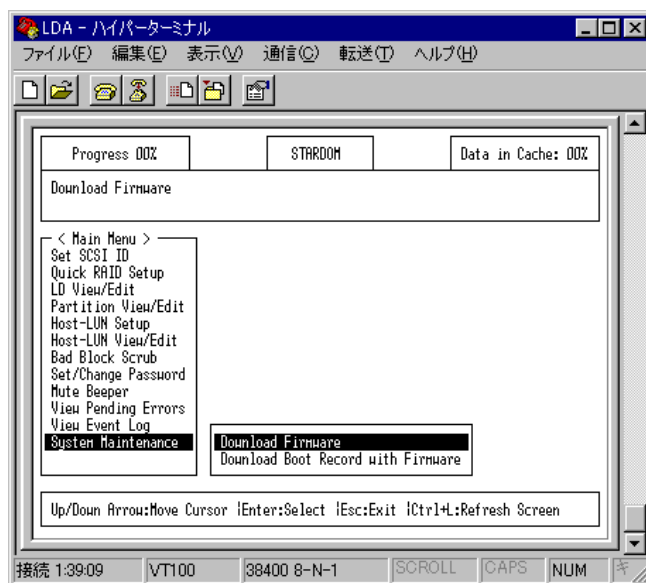
ターミナルモードを起動して、装置とリンクさせます。

「System Information」メニューが表示されたら、「Enter」キーを押し「Main Menu」を表示し、カーソルを「System Maintenance」へ移動させ、「Enter」キーを押します。

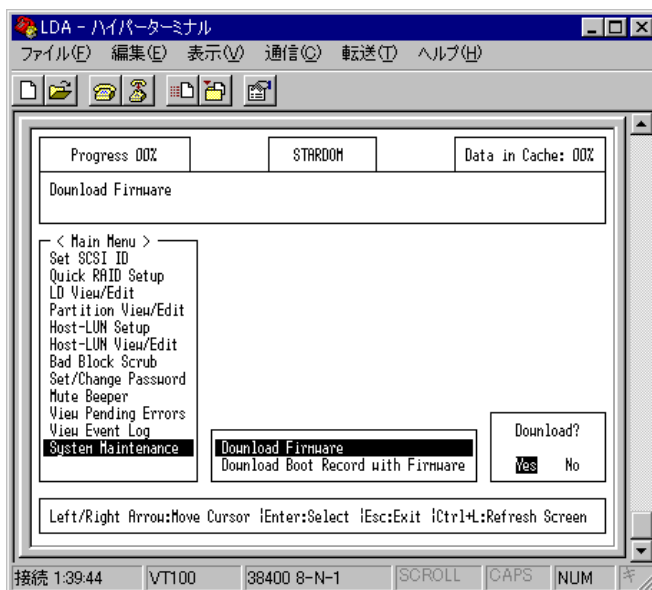
3



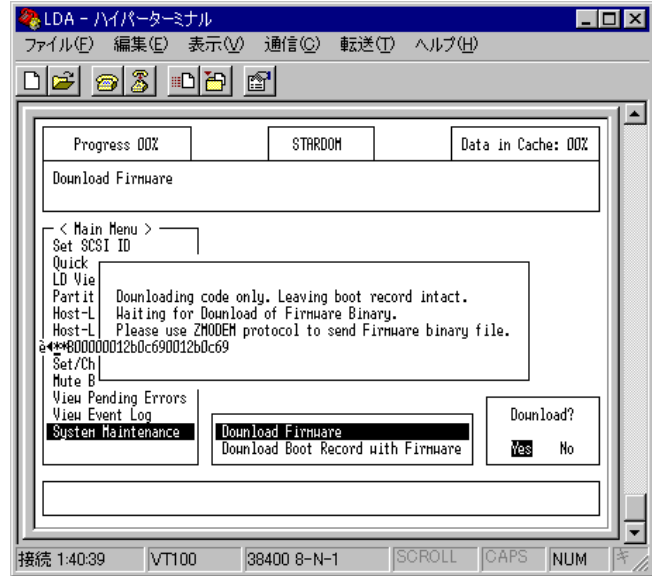
「Download Firmware」を選択し、「Enter」キーを押します。



確認メッセージが表示されるので「Yes」を選択して「Enter」キーを押します。



しばらくすると画面中央に「Downliding code only・・・」と表示されます。



ツールメニューより「転送」をクリックして「ファイルの送信」をクリックします。



下の画面が表示されます。ファイル名を指定して、「送信」ボタンを押してください。



ご注意

ファイル名は格納されているドライブ名から全てのパスを指定してください。

ダウンロードが実行されます。ダウンロード後、本製品が再起動して新しいファームウェアが有効になります。